

科目名	論理国語	単位数	2	履修学年	2	必修
使用教科書	高等学校 論理国語(第一学習社)					
副教材	課題用問題集・便覧・辞書等					

学習の到達目標	<p>言葉による見方・考え方を身につけ、言語活動を通して、言葉で的確に理解し効果的に表現する資質・能力を次のとおり育成することを目指す。</p> <p>(1) 実社会に必要な国語の知識や技能を身に付けるようにする。</p> <p>(2) 論理的に考える力や深く共感したり豊かに想像したりする力を伸ばし、他者との関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えを広げたり深めたりすることができるようにする。</p> <p>(3) 言葉がもつ価値への認識を深めるとともに、生涯にわたって読書に親しみ自己を向上させ、我が国の言語文化の担い手としての自覚をもち、言葉を通して他者や社会に関わろうとする態度を養う。</p>
---------	---

評価の観点	評価の内容	評価方法
知識・技能	実社会に必要な国語の知識や技能を身に付けている。	C
思考・判断・表現	「話すこと・聞くこと」、「書くこと」、「読むこと」の各領域において、論理的に考える力や深く共感したり豊かに想像したりする力を伸ばし、他者との関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えを広げたり深めたりしている。	B C
主体的に学習に取り組む態度	言葉を通して積極的に他者や社会に関わったり、ものの見方、感じ方、考え方を深めたりしながら、言葉がもつ価値への認識を深めようとしているとともに、読書に親しむことで自己を向上させ、我が国の言語文化の担い手としての自覚をもとうとしている。	A D
評価方法	<b>A 授業に対する意欲・態度</b> <b>B 説明・記述問題への取り組み</b> <b>C 定期試験・小テスト</b> <b>D 課題等の提出</b>	

評価のためのルーブリック

		A	B	C
		十分満足できる	おおむね満足できる	努力を要する
知識・技能	小テスト	各小テストでの平均点が80%以上	各小テストでの平均点が50%～79%	各小テストでの平均点が49%以下
	定期試験①	知識・技能をはかる問題の正答率が70%以上	知識・技能をはかる問題の正答率が50～69%	知識・技能をはかる問題の正答率が49%以下
思考・判断・表現	定期試験②	思考・判断・表現をはかる問題の正答率が70%以上	思考・判断・表現をはかる問題の正答率が50～69%	思考・判断・表現をはかる問題の正答率が49%以下
	説明・記述問題への取り組み	自身の考えを明確に言語化・文章化し、正しく他者に伝えられている	自身の考えを言語化・文章化でき、他者に伝えようと努めている	他者に伝わる言語化・文章化ができていない
主体的に学習に取り組む態度	授業に対する意欲態度	授業に意欲的に取り組み、ワークシートやノートをしっかり取っている	授業に意欲的に取り組んでいる	授業に意欲的に取り組んでいない
	課題提出	すべての課題が提出され、意欲的な取り組みが見てとれる	すべての課題が提出されている	課題が提出されていない

国語科の育てたい資質能力

(1) 主体性：主体的・計画的に学習・行動しようとする力

(2) 思考力：物事を論理的に考え、根拠にもとづき主体的に判断する力

(3) 発信力：自分の意見や学んだことを的確に表現し他者に伝える力

小山西高校の育てたい資質能力

「思考力」「発信力」「探究力」「寛容性」「協働性」「主体性」「向上心」「継続力」

# 1 学期

月	単元	学習内容及び評価の観点	評価の観点			評価方法	試験範囲
			知識技能	思考判断表現	態度		
4	自他の「間あい」 (鷺田清一)	<input type="checkbox"/> 「間」をテーマに自他の関係性について論実叙述の方法を理解する。		○		B	中間試験
		<input type="checkbox"/> 内容や構成、論理の展開を的確に捉え、要旨を把握する。		○		C	
		<input type="checkbox"/> 言い換えや比喩を正確に読み取る。					
		<input type="checkbox"/> 語句の量を増やし、語彙を豊かにする。	○			C	
		<input type="checkbox"/> 粘り強く本文の構成と論理の展開を捉え、学習課題に沿ってまとめる。			○	D	
		<input type="checkbox"/> 「アイデンティティ」について、筆者の主張を補強する例を自分の体験から探す。			○	A	
5	「私」中心の日本語 (森田良行)	<input type="checkbox"/> 具体例と主張との関係を整理して、筆者が主張する日本語の特徴を理解する。		○		B	中間・期末試験
		<input type="checkbox"/> 内容や構成、論理の展開を的確に捉え、要旨を把握する。		○		C	
		<input type="checkbox"/> 文章に含まれている情報を相互に関係づけながら、内容を解釈する。					
		<input type="checkbox"/> 語句の量を増やし、語彙を豊かにする。	○			C	
		<input type="checkbox"/> それぞれの形式段落の役割を理解する。					
		<input type="checkbox"/> 粘り強く本文の構成と論理の展開を捉え、学習課題に沿ってまとめる。			○	D	
6	手の変幻 (清岡卓行)	<input type="checkbox"/> 筆者の着眼点や表現の特徴について整理し、主張に説得力を持たせる論の展開について理解する。		○		B	期末試験
		<input type="checkbox"/> 内容や構成、論理の展開を的確に捉え、要旨を把握する。		○		C	
		<input type="checkbox"/> 言い換えの表現を理解し、それぞれの段落での中心となる内容を把握する。					
		<input type="checkbox"/> 慣用句の意味を調べ、語彙を豊かにする。	○			C	
		<input type="checkbox"/> 接続詞の働きを理解する。					
		<input type="checkbox"/> 粘り強く本文の構成と論理の展開を捉え、学習課題に沿ってまとめる。			○	D	
7	論理研究「推論」	<input type="checkbox"/> 演繹と帰納と仮説形成という三つの推論の違いをまとめる。	○			C	
		<input type="checkbox"/> 例文を用いて、三つの推論の妥当性を検討する。		○		C	
		<input type="checkbox"/> 推論の誤りを指摘し、意見を述べる。			○	A	

## 2 学期

月	単元	学習内容及び評価の観点	評価の観点			評価方法	試験範囲	
			知識技能	思考判断表現	態度			
8 9	働かないアリに意義がある (長谷川英祐)	<input type="checkbox"/> アリの生態から人間社会へと展開する論の構造を読み取り、筆者の主張を読み取る。		○		B	中間試験	
		<input type="checkbox"/> 内容や構成、論理の展開を的確に捉え、要旨を把握する。		○		C		
		<input type="checkbox"/> 実験内容と結果を表でまとめる。						
		<input type="checkbox"/> 語句の量を増やし、語彙を豊かにする。	○			C		
		<input type="checkbox"/> 粘り強く本文の構成と論理の展開を捉え、学習課題に沿ってまとめる。			○	D		
10	なぜ多様性が必要か (福岡伸一)	<input type="checkbox"/> 組織を運営していくにはどうすればよいか考え、主張が的確に伝わるように発表する。			○	A	中間・期末試験	
		<input type="checkbox"/> 生態系を捉える筆者の主張を把握し、生物多様性が必要な理由について考察する。		○		B		
		<input type="checkbox"/> 内容や構成、論理の展開を的確に捉え、要旨を把握する。		○		C		
		<input type="checkbox"/> 具体例から筆者の主張を把握し、各段落での主張を理解する。						
		<input type="checkbox"/> 専門的な用語の意味を調べ、語彙を豊かにする。	○			C		
		<input type="checkbox"/> 粘り強く本文の構成と論理の展開を捉え、学習課題に沿ってまとめる。			○	D		
11 12	コミュニティ空間としての都市 (広井良典)	<input type="checkbox"/> 生物多様性について調べ、意見をまとめる。			○	A	期末試験	
		<input type="checkbox"/> 情報の分析に基づく論理展開と対比構造を把握する。		○		B		
		<input type="checkbox"/> 内容や構成、論理の展開を的確に捉え、要旨を把握する。		○		C		
		<input type="checkbox"/> 調査結果について、それぞれが何を述べるために提示されているかを理解する。						
		<input type="checkbox"/> 語句の量を増やし、語彙を豊かにする。	○			C		
		<input type="checkbox"/> グラフの読み取りを正確に行う。						
12	詠み比べ、コミュニケーション 「対話の意味」 「身体的表現の関係性」	<input type="checkbox"/> 粘り強く本文の構成と論理の展開を捉え、学習課題に沿ってまとめる。			○	D	期末試験	
		<input type="checkbox"/> 都市型コミュニティとはどのような場所か、考えを述べる。			○	A		
		<input type="checkbox"/> モノログとダイアログの違いを理解する。		○		C		
		<input type="checkbox"/> 受信者と発信者の方向性の違いを理解する。						
		<input type="checkbox"/> 実際の場面を想定し、それぞれのコミュニケーションを整理し、心情を想像してまとめる。			○	A		

### 3 学期

月	単元	学習内容及び評価の観点	評価の観点			評価方法	試験範囲	
			知識技能	思考判断表現	態度			
1	越境する動物がもたらす贈り物 (矢野智司)	<input type="checkbox"/> 物語に描かれた人物と動物との関わりについて理解する。		○		B	学年末試験	
		<input type="checkbox"/> 内容や構成、論理の展開を的確に捉え、要旨を把握する。		○		C		
		<input type="checkbox"/> 筆者の主張とそれを支える根拠の關係に着目して読み取る。						
		<input type="checkbox"/> 語句の量を増やし、語彙を豊かにする。	○			C		
		<input type="checkbox"/> 粘り強く本文の構成と論理の展開を捉え、学習課題に沿ってまとめる。			○	D		
		<input type="checkbox"/> 「異類婚姻譚」について調べ、発表する。			○	A		
2	「第二の身体」としてのメディアと技術 (若林幹夫)	<input type="checkbox"/> 「間」をテーマに自他の關係性について論実叙述の方法を理解する。		○		B		
		<input type="checkbox"/> 内容や構成、論理の展開を的確に捉え、要旨を把握する。		○		C		
		<input type="checkbox"/> 言い換えや比喩を正確に読み取る。						
		<input type="checkbox"/> 語句の量を増やし、語彙を豊かにする。	○			C		
		<input type="checkbox"/> 粘り強く本文の構成と論理の展開を捉え、学習課題に沿ってまとめる。			○	D		
		<input type="checkbox"/> 「アイデンティティ」について、筆者の主張を補強する例を自分の体験から探す。			○	A		
3	実用文 「法に関わる文章を読み比べる」 「ボランティアへの参加を伝えるメール」	<input type="checkbox"/> 文章を比較して、書き手の立場や目的を考えながら理解する。		○		C		
		<input type="checkbox"/> 文章の構成や表現のしかたを、多面的に考える。						
		<input type="checkbox"/> 情報と情報の關係について理解を深め、整理する方法を学ぶ。	○			C		
		<input type="checkbox"/> 自分の考えを的確に伝わるように、表現の仕方を工夫する。			○	A		

※ 原則として一つの単元（題材）で全ての観点について評価することとなるが、学習内容（小単元）の各項目において重点的に評価を行う観点（もしくは重み付けを行う観点）について○を付けている。

※評価のためのルーブリックの数値は±5程度の調整が生じることもある。

科目名	文学国語	単位数	2	履修学年	2	必修
使用教科書	高等学校 文学国語(第一学習社)					
副教材	課題用問題集・便覧・辞書等					

学習の到達目標	<p>言葉による見方・考え方を身につけ、言語活動を通して、言葉で的確に理解し効果的に表現する資質・能力を次のとおり育成することを目指す。</p> <p>(1) 生涯にわたる社会生活に必要な国語の知識や技能を身に付けるとともに、我が国の文学に対する理解を深めることができるようにする。</p> <p>(2) 深く共感したり豊かに想像したりする力を伸ばし、他者との関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えを広げたり深めたりすることができるようにする。</p> <p>(3) 言葉がもつ価値への認識を深めるとともに、生涯にわたって読書に親しみ自己を向上させ、我が国の文学の担い手としての自覚をもち、言葉を通して他者や社会に関わろうとする態度を養う。</p>
---------	--

評価の観点	評価の内容	評価方法
知識・技能	生涯にわたる社会生活に必要な国語の知識や技能を身に付けているとともに、我が国の文学に対する理解を深めている。	C
思考・判断・表現	「書くこと」、「読むこと」の各領域において、深く共感したり豊かに想像したりする力を伸ばし、他者との関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えを広げたり深めたりしている。	B C
主体的に学習に取り組む態度	言葉を通して積極的に他者や社会に関わったり、ものの見方、感じ方、考え方を深めたりしながら、言葉がもつ価値への認識を深めようとしているとともに、読書に親しむことで自己を向上させ、我が国の文学の担い手としての自覚をもとうとしている。	A D
評価方法	<p>A 授業に対する意欲・態度</p> <p>B 説明・記述問題への取り組み</p> <p>C 定期試験・小テスト</p> <p>D 課題等の提出</p>	

評価のためのルーブリック

		A	B	C
		十分満足できる	おおむね満足できる	努力を要する
知識・技能	小テスト	各小テストでの平均点が80%以上	各小テストでの平均点が50%～79%	各小テストでの平均点が49%以下
	定期試験①	知識・技能をはかる問題の正答率が70%以上	知識・技能をはかる問題の正答率が50～69%	知識・技能をはかる問題の正答率が49%以下
思考・判断・表現	定期試験②	思考・判断・表現をはかる問題の正答率が70%以上	思考・判断・表現をはかる問題の正答率が50～69%	思考・判断・表現をはかる問題の正答率が49%以下
	説明・記述問題への取り組み	自身の考えを明確に言語化・文章化し、正しく他者に伝えられている	自身の考えを言語化・文章化でき、他者に伝えようと努めている	他者に伝わる言語化・文章化ができていない
主体的に学習に取り組む態度	授業に対する意欲態度	授業に意欲的に取り組み、ワークシートやノートをしっかり取っている	授業に意欲的に取り組んでいる	授業に意欲的に取り組んでいない
	課題提出	すべての課題が提出され、意欲的な取り組みが見てとれる	すべての課題が提出されている	課題が提出されていない

国語科の育てたい資質能力

(1) 主体性：主体的・計画的に学習・行動しようとする力

(2) 思考力：物事を論理的に考え、根拠にもとづき主体的に判断する力

(3) 発信力：自分の意見や学んだことを的確に表現し他者に伝える力

小山西高校の育てたい資質能力

「思考力」「発信力」「探究力」「寛容性」「協働性」「主体性」「向上心」「継続力」

# 1 学期

月	単元	学習内容及び評価の観点	評価の観点			評価方法	試験範囲	
			知識技能	思考判断表現	態度			
4 5	山月記 (中島敦)	<input type="checkbox"/> 人間が虎になるという怪異の意味をふまえて作品の主題を考える。		○		B	中間試験	
		<input type="checkbox"/> 内容や構成を理解し、段落ごとの登場人物の思いを把握する。		○		C		
		<input type="checkbox"/> 登場人物や情景描写の役割を理解する。						
		<input type="checkbox"/> 語句の量を増やし、語彙を豊かにする。	○			C		
		<input type="checkbox"/> 粘り強く本文の内容と登場人物の心理を捉え、学習課題に沿ってまとめる。			○	D		
		<input type="checkbox"/> 「人虎伝」との違いを読み取る。			○	A		
6	城の崎にて (志賀直哉)	<input type="checkbox"/> 作中に示された死生観を理解する。		○		B	中間・期末試験	
		<input type="checkbox"/> 三つの小動物の死に際して抱いた思いをまとめる。		○		C		
		<input type="checkbox"/> 小説の時間的な構成を把握する。						
		<input type="checkbox"/> 語句の量を増やし、語彙を豊かにする。	○			C		
		<input type="checkbox"/> 粘り強く本文の内容と登場人物の心理を捉え、学習課題に沿ってまとめる。			○	D		
		<input type="checkbox"/> 同じ作者の作品と読み比べ、死生観の違いをまとめる。			○	A		
7	小諸なる古城のほとり (島崎藤村) 永訣の朝 (宮沢賢治)	<input type="checkbox"/> 詩の形式について理解する。	○			C	期末試験	
		<input type="checkbox"/> 情景に込められた心情を理解する。		○		C		
		<input type="checkbox"/> オノマトペの効果を理解する。		○		B		
		<input type="checkbox"/> 他の作品と読み比べ、作者について理解を深める。		○		B		
		<input type="checkbox"/> リズムに親しみ、音読を発表する。			○	A		



## 2 学期

月	単元	学習内容及び評価の観点	評価の観点			評価方法	試験範囲	
			知識技能	思考判断表現	態度			
8 9 10	こころ (夏目漱石)	□物語の展開を整理し、登場人物の心情を把握する。		○		B	中間試験	
		□「お嬢さん」をめぐる「私」の「K」に対する心情の変化を読み取る。		○		C		
		□「K」の言動が「私」に与えた影響を、本文即して考える。						
		□語句の意味を調べ、語彙を豊かにする。	○			C		
		□粘り強く本文の内容と登場人物の心理を捉え、学習課題に沿ってまとめる。			○	D		
		□「k」の自殺の理由について考えを述べる。			○	A		
11 12	花のいざない (観世寿夫)	□日本の伝統文化を論じた文章に触れ、独特な世界を理解する。		○		B	期末試験	
		□抽象的な内容を、説明を通して理解する。		○		C		
		□舞台上での「花」が表現するものを理解する。						
		□語句の意味を調べ、語彙を豊かにする。	○			C		
		□粘り強く本文の内容と論の展開を捉え、学習課題に沿ってまとめる。			○	D		
		□花が人の心にもたらす影響をまとめる。			○	A		
12	旅する本 (角田光代)	□短編小説の構成を理解し、「私」の変化を把握する。		○		C	期末試験	
		□「私」の本の受け止め方を踏まえ、その時々「私」の状況を整理する。		○		C		
		□「その本」が「私」にとって持つ意味を考え、思いの深まりを理解する。						
		□粘り強く本文の内容と登場人物の心理を捉え、学習課題に沿ってまとめる。			○	D		
		□自分自身の変化を実感させる「もの」との出会いを発表する。			○	A		

### 3 学期

月	単元	学習内容及び評価の観点	評価の観点			評価方法	試験範囲
			知識技能	思考判断表現	態度		
1	富嶽百景 (中島京子)	<input type="checkbox"/> さまざまな文芸的話題や引用を把握し、効果を理解する。		○		B	学年末試験
		<input type="checkbox"/> 「富士」に関するそれぞれのエピソードが出された意図を理解する。 <input type="checkbox"/> 太宰治の「富嶽百景」がどのように生かされているが、比較して理解する。		○		C	
2		<input type="checkbox"/> 語句の量を増やし、語彙を豊かにする。	○			C	
		<input type="checkbox"/> 粘り強く本文の内容と登場人物の心理を捉え、学習課題に沿ってまとめる。			○	D	
		<input type="checkbox"/> 引用された作品の中で、興味を持ったものを調査する。			○	A	
3	わたしが一番きれいだったとき (茨木のり子) 死んだ男の残したものは (谷川俊太郎)	<input type="checkbox"/> 詩の構成に込められた意図を理解する。		○		C	
		<input type="checkbox"/> 繰り返される表現が、それぞれに意味するところを理解する。		○		C	
		<input type="checkbox"/> 戦争に対するそれぞれの心情表現の違いを理解する。					
		<input type="checkbox"/> リズムに親しみ、音読を発表する。			○	A	

※ 原則として一つの単元（題材）で全ての観点について評価することとなるが、学習内容（小単元）の各項目において重点的に評価を行う観点（もしくは重み付けを行う観点）について○を付けている。

※評価のためのルーブリックの数値は±5程度の調整が生じることもある。

科目名	古典探求	単位数	2	履修学年	2	必修
使用教科書	古典探求 古文編・漢文編（大修館書店）					
副教材	課題用問題集・単語帳・便覧・辞書等					

学習の到達目標	<p>古典文学を通してものの見方や考え方を深め、言語活動を通して、文化や人間を理解する能力を次のとおり育成することを目指す。</p> <p>(1) 国語の知識や技能を身に付けるとともに、我が国の言語文化に対する理解を深めることができるようにする。</p> <p>(2) 深く共感したり豊かに想像したりする力を伸ばし、他者との関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えを広げたり深めたりすることができるようにする。</p> <p>(3) 言葉がもつ価値への認識を深めるとともに、生涯にわたって読書に親しみ自己を向上させ、我が国の言語文化の担い手としての自覚をもち、言葉を通して他者や社会に関わろうとする態度を養う。</p>
---------	--

評価の観点	評価の内容	評価方法
知識・技能	国語の知識や技能を身に付けているとともに、我が国の言語文化に対する理解を深めている。	C
思考・判断・表現	「書くこと」、「読むこと」の各領域において、深く共感したり豊かに想像したりする力を伸ばし、他者との関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えを広げたり深めたりしている。	B C
主体的に学習に取り組む態度	言葉を通して積極的に他者や社会に関わったり、ものの見方、感じ方、考え方を深めたりしながら、言葉がもつ価値への認識を深めようとしているとともに、読書に親しむことで自己を向上させ、我が国の言語文化の担い手としての自覚をもとうとしている。	A D
評価方法	<p>A 授業に対する意欲・態度</p> <p>B 説明・記述問題への取り組み</p> <p>C 定期試験・小テスト</p> <p>D 課題等の提出</p>	

評価のためのルーブリック

		A	B	C
		十分満足できる	おおむね満足できる	努力を要する
知識・技能	小テスト	各小テストでの平均点が80%以上	各小テストでの平均点が50%～79%	各小テストでの平均点が49%以下
	定期試験①	知識・技能をはかる問題の正答率が70%以上	知識・技能をはかる問題の正答率が50～69%	知識・技能をはかる問題の正答率が49%以下
思考・判断・表現	定期試験②	思考・判断・表現をはかる問題の正答率が70%以上	思考・判断・表現をはかる問題の正答率が50～69%	思考・判断・表現をはかる問題の正答率が49%以下
	説明・記述問題への取り組み	自身の考えを明確に言語化・文章化し、正しく他者に伝えられている	自身の考えを言語化・文章化でき、他者に伝えようと努めている	他者に伝わる言語化・文章化ができていない
主体的に学習に取り組む態度	授業に対する意欲態度	授業に意欲的に取り組み、ワークシートやノートをしっかり取っている	授業に意欲的に取り組んでいる	授業に意欲的に取り組んでいない
	課題提出	すべての課題が提出され、意欲的な取り組みが見てとれる	すべての課題が提出されている	課題が提出されていない

国語科の育てたい資質能力

(1) 主体性：主体的・計画的に学習・行動しようとする力

(2) 思考力：物事を論理的に考え、根拠にもとづき主体的に判断する力

(3) 発信力：自分の意見や学んだことを的確に表現し他者に伝える力

小山西高校の育てたい資質能力

「思考力」「発信力」「探究力」「寛容性」「協働性」「主体性」「向上心」「継続力」

# 1 学期

月	単元	学習内容及び評価の観点	評価の観点			評価方法	試験範囲
			知識技能	思考判断表現	態度		
4	古文 十訓抄 「大江山いくのの道」	<input type="checkbox"/> 和歌に込められた心情を理解する。		○		C	中間試験
		<input type="checkbox"/> 人物関係を把握し、登場人物の発言の意図を理解する。		○		B	
		<input type="checkbox"/> 作品を通して作者が伝えたいことを理解する。		○		C	
		<input type="checkbox"/> 和歌の修辞技法を理解する。	○			C	
		<input type="checkbox"/> 語句の量を増やし、語彙を豊かにする。	○			C	
		<input type="checkbox"/> 助動詞の知識を増やす。	○			C	
		<input type="checkbox"/> 歌枕について調べる。			○	A	
5	漢文 「知音」 「画竜点睛」 「漱石枕流」	<input type="checkbox"/> 故事成語の元となった話の筋を理解する。		○		C	中間・期末試験
		<input type="checkbox"/> それぞれの人間関係や、出来事を把握する。		○		C	
		<input type="checkbox"/> 故事成語の現代での意味を知る。	○			C	
		<input type="checkbox"/> 再読文字や熟語を理解する。	○			C	
		<input type="checkbox"/> 語句の量を増やし、語彙を豊かにする。	○			C	
		<input type="checkbox"/> 親しい交友についての成語を調べる。			○	A	
6  7	古文 伊勢物語 「初冠」 「渚の院」	<input type="checkbox"/> 和歌を詠むまでの経緯を理解する。		○		C	期末試験
		<input type="checkbox"/> 和歌に込められた心情を理解する。		○		B	
		<input type="checkbox"/> 人物関係を把握し、登場人物の言動について理解する。		○		C	
		<input type="checkbox"/> 当時の風習について知る。	○			C	
		<input type="checkbox"/> 和歌の修辞技法を理解する。	○			C	
		<input type="checkbox"/> 敬語を理解する。	○			C	
		<input type="checkbox"/> 助動詞の知識を増やす。	○			C	
		<input type="checkbox"/> 伊勢物語をモチーフにした作品を調べて発表する。			○	A	
<input type="checkbox"/> 粘り強く本文の内容と登場人物の心理を捉え、学習課題に沿ってまとめる。			○	D			

## 2 学期

月	単元	学習内容及び評価の観点	評価の観点			評価方法	試験範囲
			知識技能	思考判断表現	態度		
8 9	古文 更級日記 「門出」	<input type="checkbox"/> 話の展開を把握し、作者の心情を理解する。		○		B	中間試験
		<input type="checkbox"/> 作者の物語への思いを理解する。		○		C	
		<input type="checkbox"/> 当時の文化を踏まえて、内容を理解する。					
		<input type="checkbox"/> 敬語を理解する。	○			C	
		<input type="checkbox"/> 語句の量を増やし、語彙を豊かにする。	○			C	
		<input type="checkbox"/> 助動詞の知識を増やす。	○			C	
		<input type="checkbox"/> 他の日記文学について調べ、特徴を整理する。			○	A	
		<input type="checkbox"/> 粘り強く本文の内容と登場人物の心理を捉え、学習課題に沿ってまとめる。			○	D	
10 11	漢文 鴻門の会 「沛公項王に見ゆ」 「樊噲目を嗔らして項王を視る」	<input type="checkbox"/> 話の背景を理解し、登場人物の立場を把握する。				B	中間・期末試験
		<input type="checkbox"/> 登場人物の関係や、出来事を把握する。		○		C	
		<input type="checkbox"/> それぞれの言動における目的や、性格を読み取る。					
		<input type="checkbox"/> 使役などの句法を理解する。	○			C	
		<input type="checkbox"/> 語句の量を増やし、語彙を豊かにする。	○			C	
		<input type="checkbox"/> 項王と沛公の人物像をまとめる。			○	A	
12	古文 大鏡 「競べ弓」	<input type="checkbox"/> 当時の時代背景を踏まえて、登場人物を把握する。		○		B	期末試験
		<input type="checkbox"/> 人物関係を把握し、登場人物の発言の意図を理解する。		○		C	
		<input type="checkbox"/> それぞれの言動から、人間関係や性格を把握する。					
		<input type="checkbox"/> 敬語を理解する。	○			C	
		<input type="checkbox"/> 語句の量を増やし、語彙を豊かにする。	○			C	
		<input type="checkbox"/> 助動詞の知識を増やす。	○			C	
		<input type="checkbox"/> 「栄花物語」との違いを調べてまとめる。			○	A	
		<input type="checkbox"/> 粘り強く本文の内容と登場人物の心理を捉え、学習課題に沿ってまとめる。			○	D	

### 3 学期

月	単元	学習内容及び評価の観点	評価の観点			評価方法	試験範囲
			知識技能	思考判断表現	態度		
1	古文 源氏物語 「光源氏の誕生」	<input type="checkbox"/> 話の展開を把握し、登場人物の心情を理解する。		○		B	学年末試験
		<input type="checkbox"/> 桐壺更衣をめぐる人間関係を把握し、それぞれ思いを理解する。 <input type="checkbox"/> 当時の文化を踏まえて、内容を理解する。		○		C	
2		<input type="checkbox"/> 敬語を理解する。	○			C	
		<input type="checkbox"/> 語句の量を増やし、語彙を豊かにする。	○			C	
		<input type="checkbox"/> 助動詞の知識を増やす。	○			C	
		<input type="checkbox"/> 「源氏物語」に出てくる女性を調べて、興味を持った人物について発表する。			○	A	
		<input type="checkbox"/> 粘り強く本文の内容と登場人物の心理を捉え、学習課題に沿ってまとめる。			○	D	
		<input type="checkbox"/> 「源氏物語」に出てくる女性を調べて、興味を持った人物について発表する。			○	A	
3	漢文 荊軻 「風蕭蕭として易水寒し」 「囚窮まりて匕首見る」	<input type="checkbox"/> 話の背景を理解し、登場人物の立場を把握する。			○	B	
		<input type="checkbox"/> 登場人物の関係や、出来事を把握する。		○		C	
		<input type="checkbox"/> それぞれの言動における目的や、性格を読み取る。					
		<input type="checkbox"/> 故事成語の現代での意味を知る。	○			C	
		<input type="checkbox"/> 反語などの句法を理解する。	○			C	
		<input type="checkbox"/> 語句の量を増やし、語彙を豊かにする。	○			C	
		<input type="checkbox"/> 始皇帝の暗殺に関する史実をまとめる。			○	A	
		<input type="checkbox"/> 粘り強く本文の内容と登場人物の心理を捉え、学習課題に沿ってまとめる。			○	D	

※ 原則として一つの単元（題材）で全ての観点について評価することとなるが、学習内容（小単元）の各項目において重点的に評価を行う観点（もしくは重み付けを行う観点）について○を付けている。

※ 評価のためのルーブリックの数値は±5程度の調整が生じることもある。

科目名	日本史探究	単位数	3	履修学年	2	選択
使用教科書	「詳説日本史」(山川出版社)					
副教材	「新日本史要点ノート」(啓隆社) 「図説日本史通覧」(帝国書院) 「日本史重要語句CheckList」(啓隆社) 「要点整理ゼミナール日本史」(浜島書店)					

学習の到達目標	社会的な事象の歴史的な見方・考え方を働かせ、課題を追究したり解決したりする活動を通して、広い視野に立ち、グローバル化する国際社会に主体的に生きる平和で民主的な国家および社会の有為な形成者に必要な公民としての資質・能力を育成することを目指す。
---------	--

評価の観点	評価の内容	評価方法
知識・技能	我が国の歴史の展開に関わる諸事象について、地理的条件や世界の歴史と関連づけながら総合的にとらえて理解しているとともに、諸資料から我が国の歴史に関する様々な情報を適切かつ効果的に調べまとめる技能を身につけるようにする。	A B
思考・判断・表現	我が国の歴史の展開に関わる事象の意味や意義、伝統と文化の特色などを、時期や年代、推移、比較、相互の関連や現在とのつながりなどに着目して、概念などを活用して多面的・多角的に考察したり、歴史にみられる課題を把握し解決を視野に入れて構想したり、考察、構想したことを効果的に説明したり、それらをもとに議論したりする力を養う。	A C
主体的に学習に取り組む態度	我が国の歴史の展開に関わる諸事象について、よりよい社会の実現を視野に課題を主体的に探究しようとする態度を養うとともに、多面的・多角的な考察や深い理解を通して涵養される日本国民としての自覚、我が国の歴史に対する愛情、他国や他国の文化を尊重することの大切さについての自覚などを深める。	A B C D
評価方法	A 定期試験・小テスト B ワークシート・ノート等の提出物 C 授業でのグループ活動・発表 D 学習に対する意欲・態度	



評価のためのルーブリック					
		A	B	C	割合
		十分満足できる	おおむね満足できる	努力を要する	
知識・技能	小テスト	各小テストでの平均点が85%以上	各小テストでの平均点が60%～84%	各小テストでの平均点が59%以下	50
	定期試験①	知識・技能をはかる問題の正答率が70%以上	知識・技能をはかる問題の正答率が40～69%	知識・技能をはかる問題の正答率が39%以下	
思考・表現・判断	定期試験②	思考・判断・表現をはかる問題の正答率が70%以上	思考・判断・表現をはかる問題の正答率が40～69%	思考・判断・表現をはかる問題の正答率が39%以下	30
	発表	資料等を活用し、歴史の展開から課題を考察し、発表に向かっている	準備等、学習への態度が良好で、意欲的に発表に臨んでいる	準備が不十分である 発表への積極性が不十分	
主体的に学習に取り組む態度	課題提出	すべての課題が提出され、意欲的な取り組みが見てとれる	すべての課題が提出されている	課題の提出が不十分である	20
	授業に対する意欲態度	自己・他者評価により、授業に意欲的に取り組み、ワークシートやノートをしっかりと取っていることが評価されている	自己・他者評価により、授業に意欲的に取り組んでいることが評価されている	自己・他者評価により、授業に意欲的に取り組んでいないと判断されている	
	授業におけるグループ活動への取り組み	自己・他者評価により、意欲的な取り組みが評価されている	自己・他者評価により、やるべき活動をこなしていることが評価されている	自己・他者評価により、やるべき活動をこなしていないと判断されている	

### 地歴科の育てたい資質能力

- (1) 探究力：社会的な見方・考え方を働かせ、課題を追求したり解決したりする力
- (2) 主体性：よりよい社会の実現を視野に、現代の諸課題を主体的に解決しようとする力
- (3) 発信力：社会的事象を多面的・多角的に考察し、自分の意見や考えをまとめ、課題解決の在り方を問うことのできる力

### 小山西高校の育てたい資質能力

「思考力」「発信力」「探究力」「寛容性」「協働性」「主体性」「向上心」「継続力」

# 1 学期

月	単元	生徒の到達目標・評価基準	評価の観点			評価方法	試験範囲
			知識技能	思考判断表現	態度		
4	第1章 日本文化のあけぼの	<input type="checkbox"/> 人類文化の発生を考え、日本列島における旧石器文化・縄文文化の時代の社会を理解する。	○			A B	中間試験
	1 文化の始まり	<input type="checkbox"/> 大陸からの稲作伝播の様子や地域性の顕著な道具の分布を踏まえて、弥生文化の形成を考察する。		○		A C	
	2 農耕社会の成立	<input type="checkbox"/> 集落・墓の変容から富の蓄積を理解し、小国が形成される過程を東アジア世界との交流と関連づけて考察する。		○		A C	
5	第2章 古墳とヤマト政権	<input type="checkbox"/> 地域の首長の出現から統一国家に至る過程を、古墳の変容からとらえる。	○			A B	
	1 古墳文化の展開 2 飛鳥の朝廷	<input type="checkbox"/> ヤマト政権の権力争いや大陸文化の摂取に着目して、飛鳥時代を考察する。		○		A C	
6	第3章 律令国家の形成	<input type="checkbox"/> 律令にもとづく国内統治体制について理解する。	○			A B	
	1 律令国家への道 2 平城京の時代	<input type="checkbox"/> 平城京における政治動向について、土地政策も含めて考察する。		○		A C	
	3 律令国家の文化	<input type="checkbox"/> 律令国家の成立期・完成期に当たる白鳳文化・天平文化における政治性と国際性、国家仏教の展開などに着目して、古代国家の展開を理解する。	○			A B	
	4 律令国家の変容	<input type="checkbox"/> 平安前期を中心とした古代国家の推移について、東北経営や政治改革、地方統治の変容を踏まえて、律令体制の変質を考察する。		○		A C	
7	第4章 貴族政治の展開	<input type="checkbox"/> 藤原氏による摂関政治の成立過程と政治運営への影響について考察する。		○		A C	
	1 摂関政治	<input type="checkbox"/> 大陸文化の消化と末法思想を前提とした新しい貴族文化として、国風文化が展開されたことを理解する。	○			A C	
	2 国風文化 3 地方政治の展開と武士	<input type="checkbox"/> 律令制にもとづく地方統治体制の崩れへの対応が、公領支配の変質、荘園の拡大をもたらした経過と武士の成長過程を考察する。		○	○	C D	

## 2 学期

月	単元	生徒の到達目標・評価基準	評価の観点			評価方法	試験範囲
			知識技能	思考判断表現	態度		
8 9	第5章 院政と武士の躍進	□院政期前後の土地支配形態を踏まえて、院政期の政治・経済・社会・文化を理解する。	○			A B	中間試験
	1 院政の始まり 2 院政と平氏政権	□平氏政権の特性について理解することと、古代から中世への変化について考察し、時代を通観する問いを表現する。		○	○	C D	
10	第6章 武家政権の成立	□鎌倉幕府が東国の地方政権から全国的な武家政権に成長していく過程を理解する。	○			A B	
	1 鎌倉幕府の成立 2 武士の社会	□将軍独裁体制から執権政治の確立に至る過程を理解するとともに、土地の支配権を地頭が掌握するに至った過程を考察する。		○		A C	
	3 モンゴル襲来と幕府の衰退	□モンゴル襲来による政治・経済・文化への影響を理解する。幕府勢力が西国に浸透した一方で、幕府の衰退につながっていくことを理解する。	○			A B	
	4 鎌倉文化	□庶民や武士の活動が活発化し、鎌倉仏教が成立するなど、文化の新しい気運が生まれたことと、伝統的な公家文化を理解する。	○			A B	
11	第7章 武家社会の成長	□南北朝の動乱から室町幕府の成立と安定について、日本諸地域の動向などを踏まえて考察する。		○		A C	期末試験
	1 室町幕府の成立 2 幕府の衰退と庶民の台頭	□諸産業の発達による庶民の台頭を踏まえて、庶民の活動が社会秩序の変革の原動力として成長していったことや、幕府の動揺・下剋上の風潮を考察する。		○		A C	
	3 室町文化	□東アジア世界との交流に着目して、武家文化と公家文化および、大陸文化と伝統文化の関わりについて理解する。	○			A B	
	4 戦国大名の登場	□応仁の乱以降、地方権力として登場した戦国大名や各地に展開した都市について、諸地域の地理的条件と文化の伝播を考察する。		○		A C	
12	第8章 近世の幕開け	□織田信長の統一事業、豊臣秀吉の天下統一、秀吉の朝鮮侵略と続く織豊政権の特色と意義、その後の時代への影響について理解する。	○			A B	
	1 織豊政権 2 桃山文化	□新興の大名や都市の豪商の精神を反映した桃山文化について、町衆の生活にも着目し、大航海時代と呼ばれる世界史的背景を踏まえて考察する。		○		A C	

### 3 学期

月	単元	生徒の到達目標・評価基準	評価の観点			評価方法	試験範囲
			知識技能	思考判断表現	態度		
1	第9章 幕藩体制の成立と展開	□江戸幕府の成立による幕藩体制の確立過程を理解する。		○		A C	学年末テスト
	1 幕藩体制の成立	□幕藩体制の確立期の経済・社会を、兵農分離や村落・都市支配などの観点から、多面的・多角的に考察する。		○	○	C D	
	2 幕藩社会の構造						
	3 幕政の安定	□17世紀後半から18世紀前半までの江戸幕府の安定期について、その平和と秩序の確立の視点で考察する。		○		A C	
	4 経済の発展	□幕藩体制の安定期の農業・商工業などの発展について、諸産業相互の関係やその社会的役割を踏まえて考察する。		○		A C	
2	5 元禄文化	□経済の発展と関連して町人文化が形成されたことについて、町人の社会的台頭や幕藩体制の安定と関連させて理解する。また、儒学の特色を理解する。	○			A B	
3	第10章 幕藩体制の動揺	□幕藩体制が動揺する中、幕府や藩の諸改革の意義と影響を考察する。また、一揆や打ちこわしの実態を理解する。	○	○		A B	学年末テスト
	1 幕政の改革						
	2 宝暦・天明期の文化	□洋学や国学、その他の文化について、社会の変容に伴う幕藩体制の動揺と関連付け考察する。幕府や藩民間の教育を理解する。		○		A C	
	3 幕府の衰退と近代への道	□国際情勢の変化と幕府の衰退過程を理解する。近代化について雄藩の浮上という地方からの観点から考察する。		○	○	A C	
	4 化政文化	□化政文化について江戸と地方の交流に留意して考察する。都市と民衆中心の芸能が盛んになったことを理解する。	○			A B	

※ 原則として一つの単元（題材）で全ての観点について評価することとなるが、学習内容（小単元）の各項目において重点的に評価を行う観点（もしくは重み付けを行う観点）について○を付けている。

※評価のためのルーブリックの数値は±5程度の調整が生じることもある。



科目名	世界史探究	単位数	3	履修学年	2	文型選択
使用教科書	「詳説世界史 世界史探究」(山川出版)					
副教材	ニューステージ世界史詳覧(浜島書店) 新世界史要点ノート〔標準編〕(啓隆社) 世界史重要語句CheckList(啓隆社) 総合マスター世界史(浜島書店)					

学習の到達目標	社会的事象の歴史的な見方・考え方を働かせ、課題を追究したり解決したりする活動を通して、広い視野に立ち、グローバル化する国際社会に主体的に生きる平和で民主的な国家および社会の有為な形成者に必要な公民としての資質・能力を育成することを目指す。
---------	---

評価の観点・内容および評価方法

評価の観点	評価の内容	評価方法
知識・技能	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学習した世界史の基本的な事象の原因・経過・結果を正しく理解できたか。</li> <li>・得た知識や理解したことを、その後の学習と関連付けて理解しようとしているか。</li> </ul>	A B
思考・判断・表現	<ul style="list-style-type: none"> <li>・歴史事象の発生要因・原因等を与えられた資料から読み取ることができているか。</li> <li>・与えられた歴史事象の間に対して自分自身の言葉で表現できているか。</li> </ul>	A B C
主体的に学習に取り組む態度	世界の歴史の展開に関わる諸事象について、課題を主体的に探究しようとする態度を養うとともに、多面的・多角的な考察や深い理解を通して、他国や他国の文化を尊重することの大切さについての自覚などを深める。	B C D
評価方法	<b>A 定期試験・小テスト</b> <b>B ワークシート・ノート等の提出物</b> <b>C 授業でのグループ活動・発表</b> <b>D 授業での学習に対する意欲や態度</b>	

評価のためのルーブリック					
		A	B	C	割合
		十分満足できる	おおむね満足できる	努力を要する	
知識・技能	小テスト	各小テストでの平均点が85%以上	各小テストでの平均点が60%～84%	各小テストでの平均点が59%以下	50
	定期試験①	知識・技能をはかる問題の正答率が70%以上	知識・技能をはかる問題の正答率が40～69%	知識・技能をはかる問題の正答率が39%以下	
思考・表現・判断	定期試験②	思考・判断・表現をはかる問題の正答率が70%以上	思考・判断・表現をはかる問題の正答率が40～69%	思考・判断・表現をはかる問題の正答率が39%以下	30
	発表	資料等を活用し、歴史の展開から課題を考察し、発表に向かっている表現力豊かな発表	準備等、学習への態度が良好で、意欲的に発表に臨んでいる	準備が不十分である発表への積極性が不十分	
主体的に学習に取り組む態度	課題提出	すべての課題が提出され、意欲的な取り組みが見てとれる	すべての課題が提出されている	課題の提出が不十分である	20
	授業に対する意欲態度	自己・他者評価により、授業に意欲的に取り組み、ワークシートやノートをしっかり取っていることが評価されている	自己・他者評価により、授業に意欲的に取り組んでいることが評価されている	自己・他者評価により、授業に意欲的に取り組んでいないと判断されている	
	授業におけるグループ活動への取り組み	自己・他者評価により、意欲的な取り組みが評価されている	自己・他者評価により、やるべき活動をこなしていることが評価されている	自己・他者評価により、やるべき活動をこなしていないと判断されている	

### 地歴科の育てたい資質能力

- (1) 探究力：社会的な見方・考え方を働かせ、課題を追求したり解決したりする力
- (2) 主体性：よりよい社会の実現を視野に、現代の諸課題を主体的に解決しようとする力
- (3) 発信力：社会的事象を多面的・多角的に考察し、自分の意見や考えをまとめ、課題解決の在り方を問うことのできる力

### 小山西高校の育てたい資質能力

「思考力」「発信力」「探究力」「寛容性」「協働力」「主体性」「向上心」「継続力」

# 1 学期

月	単元	生徒の到達目標・評価基準	評価の観点			評価方法	試験範囲
			知識技能	思考判断表現	態度		
4	世界史のまなざし	□人類の進化とその特徴、各文明の発展過程に加え、生活に関連する歴史に関心を持って取り組める。		○	○	D	中間試験
	第 I 部 第1章	□灌漑農業が基盤の古代文明を理解している。			○	A	
5	文明の成立と古代文明の特質	□オリエント世界の文化・発明を理解している。	○	○	○	B	
		□古代南アジアの制度・宗教と関連付けて理解している。	○	○		C	
6		□古代中国における王朝の変遷を理解し、世界との関わりを考察している。		○		A	
		□アメリカ先住民の文明の特色を理解する。	○		○	A	
7	第2章 中央ユーラシアと東アジア世界	□中央ユーラシアの人々の動向が世界に与えた影響を体系的に考察・理解する。		○	○	C	期末試験
		□秦・漢・魏晋南北朝の時代における政治・社会の形や他地域との結びつきを考察する。		○		B	
		□唐を中心とした東アジア文化圏について理解し、唐衰退に至る過程を理解する。	○		○	A	
	第3章 南アジア世界と東南アジア世界の展開	□南・東南アジアの制度・宗教と関連付けて各王朝・国家の変遷を理解している。	○	○		D	



## 2 学期

月	単元	生徒の到達目標・評価基準	評価の観点			評価方法	試験範囲
			知識技能	思考判断表現	態度		
8	第4章 西アジアと地中海周辺の国家形成	□イラン人・ギリシア人の歩みが後のヨーロッパ及び世界の歴史に与えた影響を理解する。	○	○		D	中間試験
9		□古代ローマが地中海世界を統一した過程を考察し、その中でキリスト教をはじめとする世界に遺した文化を理解する。			○	A	
10	第5章 イスラーム教の成立とヨーロッパ世界の形成	□イスラーム教の成立と拡大を理解すると共に各地に波及したことによる影響を考察している。	○	○	○	C	
		□ヨーロッパ世界の独自性を形成過程を踏まえて考察する。	○	○		B	
11	II部 第6章 イスラーム教の伝播と西アジアへの動向	□イスラーム教の各地への伝播を軸に諸地域のつながりを理解する。		○		A	
	第7章 ヨーロッパ世界の変容と展開	□東西ヨーロッパ世界の展開を比較しそれぞれの特徴を考察する。	○		○	B	
		□西ヨーロッパの中央集権国家形成の動きをそれまでの体制をもとに理解する。		○	○	C	
12		□ヨーロッパ中世文化の特色を理解している。		○		D	

### 3 学期

月	単元	生徒の到達目標・評価基準	評価の観点			評価方法	試験範囲
			知識技能	思考判断表現	態度		
1	第8章 東アジア世界の展開と モンゴル帝国	<input type="checkbox"/> 中国王朝と遊牧民の関係性やその後のモンゴル帝国の登場の変遷を理解する。	○			A	学 年 末 試 験
2	第9章 大交易・大交流の時代	<input type="checkbox"/> 「世界の一体化」の動きが起きた時のアジア、ヨーロッパそれぞれの状況・情勢を理解する。	○	○		C	
3	第10章 アジア諸帝国の繁栄	<input type="checkbox"/> トルコ・イラン・ムガル帝国の動向と宗教を含めた文化について理解する。		○	○	B	
		<input type="checkbox"/> 明・清の成立や発展、周辺地域との関わりを資料を用いて理解している。	○		○	D	

※ 原則として一つの単元（題材）で全ての観点について評価することとなるが、学習内容（小単元）の各項目において重点的に評価を行う観点（もしくは重み付けを行う観点）について○を付けている。

科目名	公共	単位数	2	履修学年	2	必修
使用教科書	高等学校 公共 これからの社会について考える (数研出版)					
副教材	高等学校 公共 これからの社会について考える 整理ノート (数研出版) 最新図説 公共 (浜島書店)					

学習の到達目標	<p>ア 現代の諸課題を捉え考察し、選択・判断するための手掛かりとなる概念や理論について理解するとともに、諸資料から、倫理的主体などとして活動するために必要となる情報を適切かつ効果的に調べまとめる技能を身につけるようにする。</p> <p>イ 現実社会の諸課題の解決に向けて、選択・判断の手掛かりとなる考え方や公共的な空間における基本的原理を活用して、事実を基に多面的・多角的に考察し公正に判断する力や、合意形成や社会参画を視野に入れながら構想したことを議論する力を養う。</p> <p>ウ よりよい社会の実現を視野に、現代の諸課題を主体的に解決しようとする態度を養うとともに、多面的・多角的な考察や深い理解を通して涵養される、現代社会に生きる人間としての在り方生き方についての自覚や、公共的な空間に生き国民主権を担う公民として、自国を愛し、その平和と繁栄を図ることや、各国が相互に主権を尊重し、各国民が協力し合うことの大切さについての自覚などを深める。</p>
---------	---

評価の観点	評価の内容	評価方法
知識・技能	<p>選択・判断のための手がかりとなる概念や理論、及び倫理、政治、経済などに関わる現代の諸課題について理解している。</p> <p>諸資料から必要となる情報を適切かつ効果的に調べまとめる技能を身につけている。</p>	A B C
思考・判断・表現	<ul style="list-style-type: none"> <li>現実の諸課題の解決に向けて概念などを活用して多面的・多角的に考察している。</li> <li>課題の解決に向けて、公正に判断する力や合意形成、社会参画を視野に入れながら構想したことを議論する力を養っている。</li> </ul>	A B C D
主体的に学習に取り組む態度	<ul style="list-style-type: none"> <li>国家及び社会の形成者として、よりよい社会の実現を視野に、現代の諸課題を主体的に解決しようとしている。</li> <li>現代社会に生きる人間としての在り方生き方について自覚しようとしている。</li> </ul>	B C D
評価方法	<p>A 定期試験・小テスト B ワークシート・ノート等の提出物 C 授業でのグループ活動・発表 D 学習に対する意欲・態度</p>	

評価のためのルーブリック					
		A	B	C	割合
		十分満足できる	おおむね満足できる	努力を要する	
知識・技能	小テスト	各小テストでの平均点が80%以上	各小テストでの平均点が60%～79%	各小テストでの平均点が59%以下	50
	定期試験①	知識・技能をはかる問題の正答率が70%以上	知識・技能をはかる問題の正答率が40～69%	知識・技能をはかる問題の正答率が39%以下	
思考・表現・判断	定期試験②	思考・判断・表現をはかる問題の正答率が70%以上	思考・判断・表現をはかる問題の正答率が40～69%	思考・判断・表現をはかる問題の正答率が39%以下	30
	発表	資料・グラフ・地図等を活用して課題を考察し、発表に向かっている表現力豊かな発表	準備等、学習への態度が良好で、意欲的に発表に臨んでいる	準備が不十分である発表への積極性が不十分	
主体的に学習に取り組む態度	課題提出	すべての課題が提出され、意欲的な取り組みが見てとれる	すべての課題が提出されている	課題の提出が不十分である	20
	授業に対する意欲態度	自己・他者評価により、授業に意欲的に取り組み、ワークシートやノートをしっかりと取っていることが評価されている	自己・他者評価により、授業に意欲的に取り組んでいることが評価されている	自己・他者評価により、授業に意欲的に取り組んでいないと判断されている	
	授業におけるグループ活動への取り組み	自己・他者評価により、意欲的な取り組みが評価されている	自己・他者評価により、やるべき活動をこなしていることが評価されている	自己・他者評価により、やるべき活動をこなしていないと判断されている	

### 公民科の育てたい資質能力

- (1) 主体性：主体的・計画的に学習・行動しようとする力
- (2) 思考力：物事を論理的に考え、根拠にもとづき主体的に判断する力
- (3) 発信力：自分の意見や学んだことを的確に表現し他者に伝える力

### 小山西高校の育てたい資質能力

「思考力」「発信力」「探究力」「寛容性」「協働力」「主体性」「向上心」「継続力」

# 1 学期

月	単元	生徒の到達目標・評価基準	評価の観点のポイント			評価方法	試験範囲
			知識技能	思考判断表現	態度		
4	巻頭特集 公共的な空間をつくる私たち	□青年期の特徴を理解し、自己形成の課題について考察できている。	○	○		A	中間試験
		□伝統や文化と現代社会とのつながりを理解するとともに、よりよい社会作りを目指している。	○		○	AB	
		□様々な背景を持つ人々から社会が成り立つ事を知り、共感的に他者の思いを受け入れ公共的な空間を形成しようとしている。	○		○	AB	
5	第1章 公共的な空間における人間としてのあり方生き方	□世界の思想家の思想内容を理解し、先哲の思想や生き方から自分自身の生き方を検証している。	○	○		A	
		□現代の諸課題について理解し、公共的な空間における人間としての在り方生き方を考察している。	○		○	CD	
6	第2章 公共的な空間における基本原理	□人間の尊厳や権利・責任、民主主義や法の支配など民主社会の基本原則を理解している。	○	○		A	
		□民主社会の基本的原則を考察し、民主社会に主体的に生きる人間の在り方生き方について思索を深めている。		○	○	AD	
7		□日本国憲法の基本原則や権利を理解し、自らの生き方と結びつけようとしている。	○		○	AD	

## 2 学期

月	単元	生徒の到達目標・評価基準	評価の観点のポイント			評価方法	試験範囲
			知識技能	思考判断表現	態度		
8 9	第3章 ルールを作り守る 私たち	□法や規範の意義や役割を理解し、身近な契約の例について考察している。	○	○		AD	中間 試験
		□司法権の独立と国民の参加、及び国民の権利保護について理解し、司法参加の意義を考える。	○		○	AB	
10	第4章 政治に参加する私 たち	□地方自治や選挙の仕組み、政党の役割を考察し、民主政治を支える制度を理解している。	○	○		A	
		□国際政治の動向について理解し、国際連合の仕組みやその課題について考察できている。	○		○	AB	
11	第5章 経済活動を行う私 たち	□国際政治における日本の役割を理解するとともに、国際社会が抱える諸課題の解決への筋道を考えることができる。	○		○	AC	期末 試験
		□現代の産業について理解し、社会的役割や国民生活への影響を考察できている。	○	○		AB	
		□市場経済の仕組みと金融政策について理解し、合理的な消費活動やよりよい経済設計を立てられる。	○		○	AC	

### 3 学期

月	単元	生徒の到達目標・評価基準	評価の観点のポイント			評価方法	試験範囲
			知識技能	思考判断表現	態度		
1 2	第5章 経済活動を行う私たち	<input type="checkbox"/> 財政の仕組みを理解するとともに財政政策による経済への影響を考察できている。	○	○		A	学年末試験
		<input type="checkbox"/> 国際経済の動向と課題を理解し、課題解決に何ができるかを考えている。	○		○	ACD	
3	課題探究編 持続可能な社会づくりの主体となる私たち	<input type="checkbox"/> 現代社会における課題について主体的に指摘し、解決に向けた考察および構想ができている。	○		○	BCD	
		<input type="checkbox"/> 現代社会の諸問題について探究するための資料を分析し、的確に表現することができている。		○	○	BCD	

※ 原則として一つの単元（題材）で全ての観点について評価することとなるが、学習内容（小単元の各項目において重点的に評価を行う観点（もしくは重み付けを行う観点）について○を付けてい

元)

いる。



科目名	数学Ⅱ・数学B	単位数	6	履修学年	2	必修
使用教科書	新編 数学Ⅱ, 数学B (数研出版)					
副教材	「REPEAT 数学Ⅱ+B」 「チャート式解法と演習数学Ⅱ+B」 (数研出版)					

学習の到達目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・いろいろな式、図形と方程式、指数関数・対数関数、三角関数及び微分・積分の考えについて理解させ、基礎的な知識の習得と技能の習熟を図り、事象を数学的に考察する能力を培い、数学のよさを認識できるようにするとともに、それらを活用する態度を育てる。</li> <li>・数列、統計的な推測について理解させ、基礎的な知識の習得と技能の習熟を図り、数学と社会生活の関わりについて認識を深め、事象を数学的に考察する能力を培い、数学のよさを認識できるようにするとともに、それらを活用する態度を育てる。</li> </ul>
---------	--

評価の観点	評価の内容	評価方法
知識・技能	基本的な概念や原理・法則を体系的に理解するとともに、数学と社会生活の関わりについて認識を深め、事象を数学化したり、数学的に解釈したり、数学的に表現・処理したりする技能を身に付けるようにする。	B C
思考・判断・表現	論理的に考察する力、方程式を用いて簡潔・明瞭・的確に表現する力、規則性に着目し、事象を数学的に考察する力、問題解決の過程や結果を振り返って統合的・発展的に考察したりする力を身に付ける。また、傾向を推測し判断したり、方法や結果を批判的に考察したりする力、日常や社会の事象を数学化し、問題を解決する力を身に付ける。	B C
主体的に学習に取り組む態度	数学のよさを認識し数学を活用しようとする態度、粘り強く柔軟に考え数学的論拠に基づいて判断しようとする態度、問題解決の過程を振り返って考察を深めたり、評価・改善したりしようとする態度や創造性の基礎を養う。	A D
評価方法	A 授業態度 B 定期試験 C 単元テスト D 課題	

評価のためのルーブリック

		A	B	C	割合
		十分満足できる	おおむね満足できる	努力を要する	
知識・技能	B 定期試験	知識・技能をはかる問題の基準点と比較して、十分な理解ができていると判断できる	知識・技能をはかる問題の基準点と比較して、理解ができていると判断できる	知識・技能をはかる問題の基準点と比較して、理解が不十分であると判断できる	50
	C 単元テスト	知識・技能をはかる問題の基準点と比較して、十分な理解ができていると判断できる	知識・技能をはかる問題の基準点と比較して、理解ができていると判断できる	知識・技能をはかる問題の基準点と比較して、理解が不十分であると判断できる	
思考・表現・判断	B 定期試験	思考・判断・表現をはかる問題の基準点と比較して、十分な理解ができていると判断できる	思考・判断・表現をはかる問題の基準点と比較して、理解ができていると判断できる	思考・判断・表現をはかる問題の基準点と比較して、理解が不十分であると判断できる	30
	C 単元テスト	思考・判断・表現をはかる問題の基準点と比較して、十分な理解ができていると判断できる	思考・判断・表現をはかる問題の基準点と比較して、理解ができていると判断できる	思考・判断・表現をはかる問題の基準点と比較して、理解が不十分であると判断できる	
主体的に学習に取り組む態度	A 授業態度	授業に意欲的に取り組み、主体的な態度である	授業に意欲的に取り組んでる	授業に意欲的に取り組んでいない	20
	D 課題	すべての課題が提出され、意欲的な取り組みが見てとれる	すべての課題が提出されている	課題が提出されていない	

※基準点は、テスト毎の難易度により変動

数学科の育てたい資質能力	
(1)	思考力：物事を論理的に考え、根拠にもとづき主体的に判断する力
(2)	探求力：物事を見極め追求し、課題を解決する力
(3)	主体性：主体的・計画的に学習・行動しようとする力
小山西高校の育てたい資質能力	
「思考力」「発信力」「探究力」「寛容性」「協働性」「主体性」「向上心」「継続力」	

# 1 学期

月	単元	生徒の到達目標・評価基準	評価の観点のポイント			評価方法	試験範囲	
			知識技能	思考判断表現	態度			
4	< 数学Ⅱ > 第1章 式と証明	□3次式の乗法公式と3次式の因数分解を利用することができる。	○			B	中間試験	
		□二項定理をパスカルの三角形と関連づけて学習し、その応用を通して数学のよさに触れる。			○	A		
		□整式の除法で商や余りを求めることができるようにするとともに、与えられた整式と商と余りの関係を理解する。		○		C		
		□分数式の約分・通分や分母・分子が2次程度までの分数式の四則計算を自由に行うことができる。	○			B		
	2. 等式・不等式の証明	□数学における証明の方法を理解し、式の証明に意欲的に取り組もうとする。			○	D		
		□不等式の基本性質を用いて式の証明を行うなど、論証についての理解を深める。また、不等式の証明におけるさまざまな手法を理解し、利用できる。	○			C		
		第2章 複素数と方程式	□2次方程式がつねに解をもつように解の範囲を実数から複素数の範囲まで拡張することに興味をもち、そのよさを理解する。			○		A
			5	1. 複素数と2次方程式の解	□解が実数や虚数であることやその個数と判別式の符号との関係について理解する。	○		
	2. 高次方程式	□2次方程式の解と係数の関係に興味をもち、理解して、式の見方・考え方を深める				○		D
	5	第3章 図形と方程式	□剰余の定理と因数定理の意義について理解する。		○			C
			□複2次式の因数分解や因数定理などを利用して高次方程式を解くことができる。	○				B
			□2点間の距離を求めることができ、三角形などの平面図形の考察に活用できる。		○			C
1. 点と直線			□内分点・外分点と座標の関係を理解し、三角形などの平面図形の性質や関係を調べることができる。	○			B	
		□直線がいろいろな形の方程式で表されることなど直線とその方程式の関係を理解する。		○		B		
		□2直線が平行になる場合と垂直になる場合について理解し、直線で構成された図形について、方程式と図形の関係などの考察ができる。		○		C		
		2. 円	□円がx, yの2次の方程式で表されることを理解し、円について基礎的な知識を身につける。	○			B	
□円と直線の位置関係が2次方程式の判別式によって調べられることに興味をもち、それを理解するとともに、接線の方程式などの考察に応用できる。					○	A		
6	□2つの円の位置関係について理解し、2つの円の共有点と円の方程式の関係について考察できる。			○		B		
	3. 軌跡と領域		□直線や円によって区切られる領域が1つの不等式で表されることを考察する。また、いろいろな不等式が表す領域を図示することができる。		○		C	
□連立不等式の表す領域がそれぞれの不等式が表す領域の共通部分であることを理解し、それを図示することができる。また、ある領域に含まれる点(x, y)について、x, yの1次式のとる値の最大値・最小値について考察できる。			○		C			

7	第4章 三角関数	<input type="checkbox"/> 三角比から三角関数への準備として、一般角および弧度法を理解し、扇形の弧の長さや面積を求めることができる。	○			B	期末試験
	1. 三角関数	<input type="checkbox"/> 三角関数の定義を理解し、単位円を用いて三角関数の基本的な性質について考察する。		○		B	
		<input type="checkbox"/> 三角関数の相互関係が三角比の相互関係の自然な拡張になっていることを理解し、相互関係の公式を用いて三角関数についての理解を深める。			○	A	
	2. 加法定理	<input type="checkbox"/> 三角関数のグラフの特徴に興味をもち理解する。また、三角関数の周期性や対称性に気づき、グラフをかくことができる。	○			C	
		<input type="checkbox"/> 三角関数を含む方程式や不等式について理解し、その解を求めることができる	○			B	
		<input type="checkbox"/> 三角関数の加法定理に関心をもち、 $15^\circ$ 、 $75^\circ$ 、 $105^\circ$ などの三角関数の値を求めることができる。	○			B	
		<input type="checkbox"/> 加法定理から2倍角の公式や半角の公式を導き、活用できる。		○		C	
		<input type="checkbox"/> 三角関数の合成について理解し、関数の最大値・最小値などを求めることができる。		○		C	

# 2 学期

月	単元	生徒の到達目標・評価基準	評価の観点のポイント			評価方法	試験範囲	
			知識技能	思考判断表現	態度			
8	第5章 指数関数と対数関数	<input type="checkbox"/> 指数の拡張に興味をもち、指数を正の整数から整数に拡張したときも、指数法則が成り立つことを理解する。	○			B	中間試験	
		1. 指数関数	<input type="checkbox"/> 累乗根の意味を理解し、基本的な計算ができる。	○				B
		<input type="checkbox"/> 有理数を指数とする累乗について理解し、指数法則を利用していろいろな計算ができる。	○			C		
		<input type="checkbox"/> 指数関数のグラフの特徴と性質を理解する。指数関数のグラフを利用して、方程式や不等式を解くことができる。		○		C		
9	2. 対数関数	<input type="checkbox"/> 対数の基本的な事項や性質について理解し、対数の計算ができる。	○			B		
		<input type="checkbox"/> 指数関数の性質と関連づけながら対数関数の性質について考察する。また、対数関数のグラフの特徴と性質を理解する。			○	A		
< 数学 B >		<input type="checkbox"/> 数列の概念および数列についての基本的な用語を理解する。	○			B		
第3章 数列		<input type="checkbox"/> 等差数列について関心をもち、一般項 $a_n$ を初項 $a$ 、公差 $d$ を使って表せることを理解する。	○			B		
10	1. 等差数列と等比数列	<input type="checkbox"/> 等差数列の初項から第 $n$ 項までの和の求め方に関心をもち、それが $n$ を用いて表せることを理解する。		○		B		
		<input type="checkbox"/> 等比数列について関心をもち、一般項 $a_n$ を初項 $a$ 、公比 $r$ を使って表せることを理解する。	○			B		
11	2. いろいろな数列	<input type="checkbox"/> 等比数列の初項から第 $n$ 項までの和の求め方に関心をもち、それが $n$ を用いて表せることを理解する。		○		B		
		<input type="checkbox"/> 記号 $\Sigma$ の意味と性質を理解し、累乗の和を $\Sigma$ を用いて表すことができるようにする。		○		C		
		<input type="checkbox"/> 階差数列から一般項を求めることや、数列の和から一般項を求めることができるようにする。	○			C		
		<input type="checkbox"/> 数列の帰納的定義について理解し、漸化式を用いて表された数列の一般項を求めることができるようにする。	○			C		
11	第6章 微分法と積分法	<input type="checkbox"/> 数学的帰納法について理解し、等式などの証明に積極的に利用しようとする。			○	D		
		<input type="checkbox"/> 平均変化率や微分係数に関心をもち、その図形的な意味も含めて理解し、考察することができる。	○			B		
11	1. 微分係数	<input type="checkbox"/> 微分係数を関数的にとらえ、導関数を定義することができる。	○			B		
		<input type="checkbox"/> 曲線の接線の方程式を求めることができる。	○			C		
	2. 関数の値の変化	<input type="checkbox"/> 関数の増加・減少と導関数の値の正負との関係に関心をもち、関数の増加・減少を調べることができる。また、関数の極大値・極小値を求め、増減表を用いてグラフをかくことができる。	○			B		

12	3. 積分法	<input type="checkbox"/> 関数の増減や極値を調べ、増減表を用いて関数の最大値・最小値を求めることができる。また、そのことを具体的な事象の考察に活用できる。		○		C
		<input type="checkbox"/> 関数のグラフと方程式の解の個数や不等式との関係について考察し、方程式の解の個数を求めたり、不等式を証明したりすることができる。		○		C
		<input type="checkbox"/> 微分法の逆演算として不定積分を理解し、整関数について不定積分を求めることができる。	○			B
		<input type="checkbox"/> 定積分の定義を理解して考察し、定積分を求めることができる。		○		B
		定積分の性質を利用して、計算が簡単になるように工夫して計算しようとする。			○	A
		<input type="checkbox"/> 曲線や直線で囲まれた図形の面積を定積分により求める方法を理解し、面積を求めることができる。	○			C

### 3 学期

月	単元	生徒の到達目標・評価基準	評価の観点のポイント			評価方法	試験範囲
			知識技能	思考判断表現	態度		
1	< 数学 B > 第 2 章 統計的な推測 1. 確率分布	<input type="checkbox"/> 確率変数の期待値、分散、標準偏差を求めることができる。	○			C	学年末試験
		<input type="checkbox"/> 独立な確率変数の積の期待値や和の分散を公式を利用して求めることができる。	○			C	
		<input type="checkbox"/> 二項分布に従う確率変数の期待値や分散を求めることができる。	○			B	
		<input type="checkbox"/> 確率変数の期待値、分散、標準偏差などを用いて確率分布の特徴を考察することができる。		○		B	
		<input type="checkbox"/> 正規分布に従う確率変数 $X$ を標準正規分布に従う確率変数 $Z$ に変換し、確率を求めることができる。	○			B	
		<input type="checkbox"/> 正規分布を活用して現実のデータについて考察することができる。		○		C	
		<input type="checkbox"/> 確率的な試行の結果を表すのに確率分布を用いることよき気づき、確率分布について積極的に考察しようとする。			○	A	
2	2. 総計的な推測	<input type="checkbox"/> 標本平均が確率変数であることを理解し、母平均と母標準偏差から標本平均の期待値と標準偏差を求めることができる。	○			C	
		<input type="checkbox"/> 標本平均の値がどの範囲にどれくらいの確率で現れるかを推測できることを理解している。		○		B	
		<input type="checkbox"/> 信頼区間の考え方を用いて、母平均や母比率の推定ができる。	○			C	
		<input type="checkbox"/> 仮説検定の考え方を用いて日常の身近な事象に対する主張を検定することができる。	○			B	
		<input type="checkbox"/> 推定や信頼区間、仮説検定の考え方がわかる。		○		C	
		<input type="checkbox"/> 信頼区間の幅と標本の大きさや信頼度との関係を考察したり、仮説検定によって様々な判断ができることに興味を持って現実の問題の解決に役立てようとする。			○	D	
3	発展・応用問題			○	D		

※ 原則として一つの単元（題材）で全ての観点について評価することとなるが、学習内容（小単元）の各項目において重点的に評価を行う観点（もしくは重み付けを行う観点）について○を付けている。

※ 評価のためのルーブリックの数値は ± 5 程度の調整が生じることもある。

科目名	物理	単位数	3	履修学年	2	理系選択
使用教科書	物理（数研出版）					
副教材	改訂版 リードα物理基礎・物理（数研出版） 新課程 フォトサイエンス物理図録（数研出版）					

学習の到達目標	<p>物理的な事物・現象に関わり，理科の見方・考え方を働かせ，見通しをもって観察，実験を行うことなどを通して，物理的な事物・現象を科学的に探究するために必要な資質・能力を次のとおり育成することを目指す。</p> <p>(1) 物理学の基本的な概念や原理・法則の理解を深め，科学的に探究するために必要な観察，実験などに関する技能を身に付けるようにする。</p> <p>(2) 観察，実験などを行い，科学的に探究する力を養う。</p> <p>(3) 物理的な事物・現象に主体的に関わり，科学的に探究しようとする態度を養う。</p>
---------	---

評価の観点・内容および評価方法

評価の観点	評価の内容	評価方法
知識・技能	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学習した物理の基本的な概念や原理・法則が正しく理解できたか。</li> <li>・得た知識や理解したことを，その後の学習や生活の中で応用しようとしているか。</li> </ul>	A B C
思考・判断・表現	<ul style="list-style-type: none"> <li>・課題を遂行するにあたって，科学的・論理的に思考し，判断しているか。</li> <li>・課題の設定理由，研究過程，結果およびそこから導き出した自らの考えを的確・簡潔にわかりやすく相手に伝えることが出来たか。また発表にはどのような工夫がなされたか。</li> </ul>	A B C E
主体的に学習に取り組む態度	<ul style="list-style-type: none"> <li>・自然現象（特に物理的な）に対して興味・関心を高めているか。</li> <li>・意欲的に課題を追求する態度を身につけているか。</li> </ul>	B C D
評価方法	A 定期試験・小テスト B ワークシート・ノート等の提出物 C 授業でのグループ活動・発表 D 授業での学習に対する意欲や態度 E プレゼンテーション、課題研究での内容	



## 評価のためのルーブリック

		A	B	C	割合
		十分満足できる	おおむね満足できる	努力を要する	
知識・技能	小テスト	各小テストでの平均点が80%以上	各小テストでの平均点が60%～79%	各小テストでの平均点が59%以下	50
	定期試験①	知識・技能をはかる問題の正答率が60%以上	知識・技能をはかる問題の正答率が30～59%	知識・技能をはかる問題の正答率が29%以下	
思考・現判断・表現	定期試験②	思考・判断・表現をはかる問題の正答率が40%以上	思考・判断・表現をはかる問題の正答率が20～39%	思考・判断・表現をはかる問題の正答率が19%以下	30
	発表	課題の設定理由、研究過程、結果およびそこから導き出した自らの考えを的確・簡潔にわかりやすく相手に伝えている	発表に向かう態度が良好で、間違いを隠せず積極的に表現している	積極的に発表を行おうとしていない	
主体的に学習に取り組む態度	課題提出	すべての課題が提出され、意欲的な取り組みが見てとれる	すべての課題が提出されている	課題が提出されていない	20
	授業におけるグループ活動への取り組み	自己・他者評価により、意欲的な取り組みが評価されている	自己・他者評価により、やるべき活動をこなしていることが評価されている	自己・他者評価により、やるべき活動をこなしていないと判断されている	
	授業に対する意欲態度	自己・他者評価により、授業に意欲的に取り組み、ワークシートやノートをしっかりと取っていることが評価されている	自己・他者評価により、授業に意欲的に取り組んでいることが評価されている	自己・他者評価により、授業に意欲的に取り組んでいないと判断されている	

### 理科の育てたい資質能力

- (1) 主体性：主体的・計画的に学習・行動しようとする力
- (2) 思考力：物事を論理的に考え、根拠にもとづき主体的に判断する力
- (3) 探究力：物事を見極め追究し、課題を解決する力

### 小山西高校の育てたい資質能力

「思考力」「発信力」「探究力」「寛容性」「協働力」「主体性」「向上心」「継続力」

# 1 学期

月	単元	生徒の到達目標・評価基準	評価の観点のポイント			評価方法	試験範囲
			知識技能	思考判断表現	主体的に学習に取り組む態度		
4	第1編 力と運動 第1章 平面内の運動	<input type="checkbox"/> 曲線運動の速度と加速度 平面内を運動する物体の運動について理解している。	○	○		D	中間試験
5 6		<input type="checkbox"/> 放物運動 水平投射及び斜方投射された物体の運動を直線運動と関連付けて理解している。	○		○	A	
7	第2章 剛体	<input type="checkbox"/> 剛体のつり合い 大きさのある物体のつり合いに関する実験などを行い、剛体のつり合う条件を見いだして理解している。		○	○	A	期末試験

## 2 学期

月	単元	生徒の到達目標・評価基準	評価の観点のポイント			評価方法	試験範囲
			知識技能	思考判断表現	主体的に学習に取り組む態度		
8 9 10	第3章 運動量の保存	<input type="checkbox"/> 運動量と力積 運動量と力積との関係について理解している。	○		○	A	中間試験
		<input type="checkbox"/> 運動量の保存 物体の衝突や分裂に関する実験などを行い、運動量保存の法則を理解している。	○	○	○	B	
		<input type="checkbox"/> 衝突と力学的エネルギー 衝突における力学的エネルギーの変化について理解している。		○	○	E	
11 12	第4章 円運動と万有引力	<input type="checkbox"/> 円運動 円運動をする物体の様子を表す方法やその物体に働く力などについて理解している。	○		○	A	期末試験
		<input type="checkbox"/> 単振動 振り子に関する実験などを行い、単振動の規則性を見いだして理解するとともに、単振動をする物体の様子を表す方法やその物体に働く力などについて理解している。	○	○		C	
		<input type="checkbox"/> 惑星の運動 惑星の観測資料に基づいて、惑星の運動に関する法則を理解している。		○	○	D	
		<input type="checkbox"/> 万有引力 万有引力の法則及び万有引力による物体の運動について理解している。	○	○		A	

### 3 学期

月	単元	生徒の到達目標・評価基準	評価の観点のポイント			評価方法	試験範囲
			知識技能	思考判断表現	主体的に学習に取り組む態度		
1	第2編 熱と気体 第1章 気体のエネルギーと状態変化	<input type="checkbox"/> 気体分子の運動と圧力 気体分子の運動と圧力との関係について理解している。	○	○		B	学年末試験
2		<input type="checkbox"/> 気体の内部エネルギー 気体の内部エネルギーについて、気体分子の運動と関連付けて理解している。	○	○	○	A	
3		<input type="checkbox"/> 気体の状態変化 気体の状態変化に関する実験などを行い、熱、仕事及び内部エネルギーの関係を理解している。		○	○	D	
次年度以降：第3編 波 第4編 電気と磁気 第5編 原子							

※ 原則として一つの単元（題材）で全ての観点について評価することとなるが、学習内容（小単元）の各項目において重点的に評価を行う観点（もしくは重み付けを行う観点）について○を付けている。

科目名	化学基礎（文系）	単位数	2	履修学年	2	必修
使用教科書	i版 化学基礎（啓林館）					
副教材	標準セミナー化学基礎（第一学習社） サンダイヤル化学基礎の徹底暗記&ドリル（啓林館）					

学習の到達目標	<p>物質とその変化に関わり，理科の見方・考え方を働かせ，見通しをもって観察，実験を行うことなどを通して，物質とその変化を化学的に探究するために必要な資質・能力を次の通り育成することを目指す。</p> <p>(1)日常生活や社会との関連を図りながら，物質とその変化について理解するとともに，科学的に探究するために必要な観察，実験などに関する基本的な技能を身に付けるようにする。</p> <p>(2)観察，実験などを行い，科学的に探究する力を養う。</p> <p>(3)物質とその変化に主体的に関わり，科学的に探究しようとする態度を養う。</p>
---------	--

評価の観点・内容および評価方法

評価の観点	評価の内容	評価方法
知識・技能	自然の事物・現象についての概念や原理・法則などを理解している。 科学的に探究するために必要な観察，実験などに関する基本操作や記録などの技能を身に付けている。	A B C
思考・判断・表現	自然の事物・現象から問題を見だし，見通しをもって観察，実験などを行い，得られた結果を分析して解釈し，表現するなど，科学的に探究している。	A B C E
主体的に学習に取り組む態度	自然の事物・現象に主体的に関わり，見通しをもったり振り返ったりするなど，科学的に探究しようとしている。	B C D
評価方法	A 定期テスト・小テスト B ワークシート・ノート等の提出 C 授業でのグループ活動・発表 D 授業での学習に対する意欲や態度 E プレゼンテーション・課題研究での内容	

評価のためのルーブリック

		A	B	C	割合
		十分満足できる	おおむね満足できる	努力を要する	
技能・知識	小テスト	各小テストでの平均点が80%以上	各小テストでの平均点が60%~79%	各小テストでの平均点が59%以下	50
	定期試験①	知識・技能をはかる問題の正答率が70%以上	知識・技能をはかる問題の正答率が40~69%	知識・技能をはかる問題の正答率が39%以下	
思考・表現・判断	定期試験②	思考・判断・表現をはかる問題の正答率が30%以上	思考・判断・表現をはかる問題の正答率が16~29%	思考・判断・表現をはかる問題の正答率が15%以下	30
	発表	課題の設定理由、研究過程、結果およびそこから導き出した自らの考えを的確・簡潔にわかりやすく相手に伝えている	発表に向かう態度が良好で、間違いを臆せず積極的に表現している	積極的に発表を行おうとしていない	
主体的に学習に取り組む態度	課題提出	すべての課題が提出され、意欲的な取り組みが見てとれる	すべての課題が提出されている	課題が提出されていない	20
	授業におけるグループ活動への取り組み	自己・他者評価により、意欲的な取り組みが評価されている	自己・他者評価により、やるべき活動をこなしていることが評価されている	自己・他者評価により、やるべき活動をこなしていないと判断されている	
	授業に対する意欲態度	自己・他者評価により、授業に意欲的に取り組み、ワークシートやノートをしっかり取っていることが評価されている	自己・他者評価により、授業に意欲的に取り組んでいることが評価されている	自己・他者評価により、授業に意欲的に取り組んでいないと判断されている	

理科の育てたい資質能力

- (1) 主体性：主体的・計画的に学習・行動しようとする力
- (2) 思考力：物事を論理的に考え、根拠にもとづき主体的に判断する力
- (3) 探究力：物事を見極め追究し、課題を解決する力

小山西高校の育てたい資質能力

「思考力」「発信力」「探究力」「寛容性」「協働力」「主体性」「向上心」「継続力」

# 1 学期

月	単元	生徒の到達目標・評価基準	評価の観点			評価方法	試験範囲
			知識技能	思考判断表現	態度		
4	序章 化学と人間生活	<input type="checkbox"/> 生活の中で化学がどのように活かされているかを理解している。			○	A	中間試験
	第1部 物質の構成	<input type="checkbox"/> 混合物と純物質とは何かを理解し、分離、精製する方法を身に付けている。		○		B	
5	第1章 物質の構成	<input type="checkbox"/> 物質を構成する元素とその検出法について理解している。	○			B	
		<input type="checkbox"/> 元素、単体、化合物を理解し区別できている。	○			D	
6	第2章 物質の構成粒子	<input type="checkbox"/> 熱による物質の状態変化について理解している。	○			D	
		<input type="checkbox"/> 物質は原子、分子、イオンが集まってできていることと、原子の構造を理解している。	○			D	
		<input type="checkbox"/> 原子の電子配置を理解し、イオンを表現できる。		○		E	
7	第3章 化学結合	<input type="checkbox"/> 周期律と周期表、元素の性質について理解している。	○			D	期末試験
		<input type="checkbox"/> イオン結合とイオン結合でできた物質について理解している。	○			D	
		<input type="checkbox"/> 共有結合と分子、電気陰性度について理解している。	○			E	
		<input type="checkbox"/> 共有結合結晶について理解している。	○			E	
		<input type="checkbox"/> 金属結合と金属の性質について理解している。	○			E	
	<input type="checkbox"/> 化学結合による物質の分類と性質を関連付けて理解している。			○	A		

## 2 学期

月	単元	生徒の到達目標・評価基準	評価の観点			評価方法	試験範囲
			知識技能	思考判断表現	態度		
8	第2部 物質の変化	□原子量・分子量・式量について理解している。	○			A	中間試験
9	第1章 物質と化学反応式	□物質をつくる粒子の量や濃度について物質質量を用いて表す方法を理解している。	○			D	
10		□化学反応を化学反応式を用いて表すことができる。		○		C	
		□化学変化における量的な関係を物質質量により理解している。	○			D	
11	第2章 酸と塩基	□酸と塩基の性質と電離度について理解している。	○			D	期末試験
		□水分子がわずかに電離して水素イオンと水酸化物イオンを生じていることや、pHについて理解している。	○			D	
		□酸と塩基の中和の量的関係を理解し、その量的関係を計算によって求めることができる。		○		B	
12		□中和による塩の生成とその性質を理解している。	○		○	E	



### 3 学期

月	単元	生徒の到達目標・評価基準	評価の観点			評価方法	試験範囲
			知識技能	思考判断表現	態度		
1	第3章 酸化還元反応	<input type="checkbox"/> 酸化と還元の定義と酸化数について理解している。	○			D	学年末試験
		<input type="checkbox"/> 酸化剤と還元剤とその反応について理解している。		○		D	
2		<input type="checkbox"/> 酸化還元反応の量的関係を物質量と関連付けて考察できる。	○			D	
		3	<input type="checkbox"/> 金属のイオン化とイオン化傾向について理解している。	○			
<input type="checkbox"/> 酸化還元反応が日常生活において多く利用されていることを理解している。					○	A	

※ 原則として一つの単元（題材）で全ての観点について評価することとなるが、学習内容（小単元）の各項目において重点的に評価を行う観点（もしくは重み付けを行う観点）について○を付けている。

科目名	化学基礎・化学（理系）	単位数	4	履修学年	2	必修
使用教科書	高等学校 化学基礎・化学（第一学習社）					
副教材	セミナー化学基礎＋化学（第一学習社） スクエア最新図説化学（第一学習社） サンダイヤル化学基礎の徹底暗記&ドリル（啓林館） サンダイヤル化学の徹底暗記&ドリル（啓林館）					

学習の到達目標	<p>物質とその変化や化学的な事物・現象に関わり，理科の見方・考え方を働かせ，見通しをもって観察，実験を行うことなどを通して，物質とその変化を化学的に探究するために必要な資質・能力を次の通り育成することを目指す。</p> <p>(1)日常生活や社会との関連を図りながら，物質とその変化について理解するとともに，科学的に探究するために必要な観察，実験などに関する基本的な技能を身に付けるようにする。</p> <p>(2)観察，実験などを行い，科学的に探究する力を養う。</p> <p>(3)物質とその変化に主体的に関わり，科学的に探究しようとする態度を養う。</p>
---------	--

評価の観点・内容および評価方法

評価の観点	評価の内容	評価方法
知識・技能	自然の事物・現象や化学的な事物・現象についての概念や原理・法則などを理解している。 科学的に探究するために必要な観察，実験などに関する基本操作や記録などの技能を身に付けている。	A B C
思考・判断・表現	自然の事物・現象や化学的な事物・現象から問題を見いだし，見通しをもって観察，実験などを行い，得られた結果を分析して解釈し，表現するなど，科学的に探究している。	A B C E
主体的に学習に取り組む態度	自然の事物・現象や化学的な事物・現象に主体的に関わり，見通しをもったり振り返ったりするなど，科学的に探究しようとしている。	B C D
評価方法	A 定期テスト・小テスト B ワークシート・ノート等の提出 C 授業でのグループ活動・発表 D 授業での学習に対する意欲や態度 E プレゼンテーション・課題研究での内容	

評価のためのルーブリック

		A	B	C	割合
		十分満足できる	おおむね満足できる	努力を要する	
技能・知識	小テスト	各小テストでの平均点が80%以上	各小テストでの平均点が60%~79%	各小テストでの平均点が59%以下	50
	定期試験①	知識・技能をはかる問題の正答率が70%以上	知識・技能をはかる問題の正答率が40~69%	知識・技能をはかる問題の正答率が39%以下	
思考・表現・判断	定期試験②	思考・判断・表現をはかる問題の正答率が50%以上	思考・判断・表現をはかる問題の正答率が30~49%	思考・判断・表現をはかる問題の正答率が29%以下	30
	発表	課題の設定理由、研究過程、結果およびそこから導き出した自らの考えを的確・簡潔にわかりやすく相手に伝えている	発表に向かう態度が良好で、間違いを臆せず積極的に表現している	積極的に発表を行おうとしていない	
主体的に学習に取り組む態度	課題提出	すべての課題が提出され、意欲的な取り組みが見てとれる	すべての課題が提出されている	課題が提出されていない	20
	授業におけるグループ活動への取り組み	自己・他者評価により、意欲的な取り組みが評価されている	自己・他者評価により、やるべき活動をこなしていることが評価されている	自己・他者評価により、やるべき活動をこなしていないと判断されている	
	授業に対する意欲態度	自己・他者評価により、授業に意欲的に取り組み、ワークシートやノートをしっかり取っていることが評価されている	自己・他者評価により、授業に意欲的に取り組んでいることが評価されている	自己・他者評価により、授業に意欲的に取り組んでいないと判断されている	

理科の育てたい資質能力

- (1) 主体性：主体的・計画的に学習・行動しようとする力
- (2) 思考力：物事を論理的に考え、根拠にもとづき主体的に判断する力
- (3) 探究力：物事を見極め追究し、課題を解決する力

小山西高校の育てたい資質能力

「思考力」「発信力」「探究力」「寛容性」「協働力」「主体性」「向上心」「継続力」

# 1 学期

月	単元	生徒の到達目標・評価基準	評価の観点			評価方法	試験範囲
			知識技能	思考判断表現	態度		
4	化学基礎 序章 化学と人間生活	<input type="checkbox"/> 生活の中で化学がどのように活かされているかを理解している。			○	D	中間試験
	第1章 物質の構成	<input type="checkbox"/> 混合物と純物質とは何かを理解し、分離、精製する方法を身に付けている。	○	○		B	
5	第1節 物質の構成	<input type="checkbox"/> 物質を構成する元素とその検出法について理解している。	○	○		B	
	第2節 物質の構造と元素の周期表	<input type="checkbox"/> 元素、単体、化合物を理解し区別できている。	○		○	A	
		<input type="checkbox"/> 熱による物質の状態変化について理解している。	○			A	
	<input type="checkbox"/> 物質は原子、分子、イオンが集まってできていることと、原子の構造を理解している。	○	○		B		
	<input type="checkbox"/> イオンと電解質の性質について理解している。	○	○	○	C		
	第3節 化学結合	<input type="checkbox"/> 周期律と周期表、元素の性質について理解している。	○			A	
6	第2章 物質の変化	<input type="checkbox"/> イオン結合とイオン結合でできた物質について理解している。	○	○	○	A	
		<input type="checkbox"/> 共有結合と分子、電気陰性度について理解している。	○	○	○	B	
		<input type="checkbox"/> 共有結合結晶について理解している。		○		E	
		<input type="checkbox"/> 金属結合と金属の性質について理解している。	○			B	
		<input type="checkbox"/> 化学結合による物質の分類と性質を関連付けて理解している。			○	D	
7	第1節 物質と化学反応式	<input type="checkbox"/> 原子量・分子量・式量について理解している。	○			A	期末試験
7	第1節 物質と化学反応式	<input type="checkbox"/> 物質をつくる粒子の量や濃度について物質量を用いて表す方法を理解している。	○		○	C	
		<input type="checkbox"/> 化学反応を化学反応式を用いて表すことができる。	○	○	○	C	
		<input type="checkbox"/> 化学変化における量的な関係を物質量により理解している。	○		○	A	
7	第2節 酸と塩基の反応 ①②	<input type="checkbox"/> 酸と塩基の性質と電離度について理解している。	○			A	
		<input type="checkbox"/> 水分子がわずかに電離して水素イオンと水酸化物イオンを生じていることや、pHについて理解している。	○	○		B	

## 2 学期

月	単元	生徒の到達目標・評価基準	評価の観点			評価方法	試験範囲
			知識技能	思考判断表現	態度		
8	第2節 酸と塩基の反応 ①②	□酸と塩基の性質と電離度について理解している。	○			A	中間試験
9		□水分子がわずかに電離して水素イオンと水酸化物イオンを生じていることや、pHについて理解している。	○	○		B	
10	③④	□酸と塩基の中和の量的関係を理解し、その量的関係を計算によって求めることができる。	○	○	○	B	
11		□中和による塩の生成とその性質を理解している。			○	D	
12	第3節 酸化還元反応 ①②③ ④⑤⑥⑦	□酸化と還元の定義と酸化数について理解している。	○			A	
		□酸化剤と還元剤とその反応について理解している。	○		○	B	
		□酸化還元反応の量的関係を物質質量と関連付けて考察できる。	○		○	C	
		□金属のイオン化とイオン化傾向について理解している。	○	○		E	
		□酸化還元反応が日常生活において多く利用されていることを理解している。			○	D	

### 3 学期

月	単元	生徒の到達目標・評価基準	評価の観点			評価方法	試験範囲
			知識技能	思考判断表現	態度		
1	化学 第Ⅱ章 物質の変化と平衡  第2節 電池・電気分解	<input type="checkbox"/> 酸化還元反応による電池の仕組みについて理解している。	○	○		A	学年末試験
		<input type="checkbox"/> 電気分解について理解している。	○	○		B	
2		<input type="checkbox"/> 電池や電気分解における物質の変化量と電気量の関係について理解している。	○		○	D	
2	第Ⅰ章 物質の状態  第1節 物質の状態変化	<input type="checkbox"/> 状態変化に伴うエネルギーの出入りを理解している。	○			A	
		<input type="checkbox"/> 物質の沸点，融点を分子間力や化学結合と関連付けて理解している。	○			E	
		<input type="checkbox"/> 状態間の平衡と温度や圧力との関係について理解している。	○			A	
2  3	第2節 気体の性質	<input type="checkbox"/> 気体の体積と圧力や温度との関係を理解している。	○	○	○	A	
		<input type="checkbox"/> 気体定数と状態方程式，分子量の関係を理解している。	○	○	○	D	
		<input type="checkbox"/> 混合気体の特徴を捉え，分圧と物質と体積の関係を理解している。	○	○		E	
		<input type="checkbox"/> 理想気体と実在気体の違いを理解している。	○			A	
	第3節 固体の構造	<input type="checkbox"/> 固体物質を各結晶に分類できる。		○	○	B	
		<input type="checkbox"/> 化学結合とそれぞれの性質，及び結晶構造を理解している。	○	○	○	B	
		<input type="checkbox"/> アモルファスの性質を理解している。	○			A	

科目名	生物	単位数	3	履修学年	2	理系選択
使用教科書	生物（数研出版）					
副教材	セミナー生物（第一学習社） 二訂版ニューステージ生物図表（浜島書店）					

学習の到達目標	<p>ア 生物学の基本的な概念や原理・法則の理解を深め，科学的に探究するために必要な観察・実験などに関する基本的な技能を身に付けるようにする。</p> <p>イ 観察・実験などを行い，科学的に探究する力を養う。</p> <p>ウ 生物や生物現象に主体的に関わり，科学的に探究しようとする態度と，生命を尊重し，自然環境の保全に寄与する態度を養う。</p>
---------	--

評価の観点	評価の内容	評価方法
知識・技能	知識の習得や知識の概念的な理解，実験操作の基本的な技術の習得ができています。	A D E
思考・判断・表現	習得した「知識・技能」を活用して，課題を解決できる思考力・判断力・表現力を身につけている。	B C D E
主体的に学習に取り組む態度	「知識・技能の習得」や「思考力・判断力・表現力を身につける過程」において，粘り強く学習に取り組むことができる。また，自ら学習を調整していくことができる。	A B E
評価方法	<b>A 授業に対する意欲・態度</b> <b>B 実験やグループワークでの取り組み</b> <b>C プレゼンテーション発表・自己評価・相互評価</b> <b>D 定期試験・小テスト</b> <b>E 課題等の提出</b>	

評価のためのルーブリック

		A	B	C	割合
		十分満足できる	おおむね満足できる	努力を要する	
知識・技能	小テスト	各小テストでの平均点が80%以上	各小テストでの平均点が40%～79%	各小テストでの平均点が39%以下	50
	定期試験①	知識・技能をはかる問題の正答率が70%以上	知識・技能をはかる問題の正答率が30～69%	知識・技能をはかる問題の正答率が29%以下	
思考・判断・表現	定期試験②	思考・判断・表現をはかる問題の正答率が70%以上	思考・判断・表現をはかる問題の正答率が30～69%	思考・判断・表現をはかる問題の正答率が29%以下	30
	プレゼンテーション・レポート	十分に準備をして臨み、表現力も豊かである 目的・本質を捉えたレポートになっている	内容は良いが、思うような表現ができていない レポートが感想になっている	準備が不十分である 期日までに未提出である	
関心・意欲・態度	授業に対する意欲態度	自己・他者評価により、授業に意欲的に取り組み、ワークシートやノートをしっかり取っていることが評価されている	自己・他者評価により、授業に意欲的に取り組んでいることが評価されている	自己・他者評価により、授業に意欲的に取り組んでいないと判断されている	20
	実験・探究活動等グループワークへの取り組み	自己・他者評価により、意欲的な取り組みが評価されている	自己・他者評価により、やるべき活動をこなしていることが評価されている	自己・他者評価により、やるべき活動をこなしていないと判断されている	
	課題提出	すべての課題が提出され、意欲的な取り組みが見てとれる  レポート課題の目的を理解し、結果や知見から考察ができ、本質を捉えることができています	すべての課題が提出されている  行った試技から、現象を捉え、データとしてまとめられている	課題が提出されていない  試技の感想に留まるなど、活動の本質が理解されていない	

理科の育てたい資質能力

- (1) 主体性：主体的・計画的に学習・行動しようとする力
- (2) 思考力：物事を論理的に考え、根拠にもとづき主体的に判断する力
- (3) 探究力：物事を見極め、追究し、課題を解決する力

小山西高校の育てたい資質能力

「思考力」「発信力」「探究力」「寛容性」「協働力」「主体性」「向上心」「継続力」



# 1 学期

月	単元	生徒の到達目標・評価基準	評価の観点のポイント			評価方法	試験範囲	
			知識技能	思考判断表現	態度			
4	第1編 生物の進化						中間試験	
	1章 生物の進化	<input type="checkbox"/> 生命の起源について、化学進化を経て生命が誕生したことを理解している。	○			D		
	1節 生命の起源と生物の進化	<input type="checkbox"/> 細胞の進化によって地球環境が変化したり、地球環境の変化が進化に影響したりしてきたことを理解している。	○			B		
		<input type="checkbox"/> 学習したことをもとに、最初の生物が地上ではなく海洋中で誕生した理由について考え、説明することができる。		○		B		
	2節 遺伝子の変化と多様性	<input type="checkbox"/> 生命の起源と生物の進化に関心を持ち、主体的に学習に取り組める。			○	A		
		<input type="checkbox"/> 生物の形質の変化が突然変異によって生じることや突然変異が遺伝的な多様性をもたらすことを理解している。	○			D		
		<input type="checkbox"/> 遺伝子の変化と形質の変化を比較し、遺伝子の変化すると遺伝子を基にしてつくられるたんぱく質が変化し、形質が変化する法則性を見いだすことができる。		○		C		
		<input type="checkbox"/> 遺伝子の変化と多様性に関心を持ち、主体的に学習に取り組むことができる。			○	E		
		3節 遺伝子の組み合わせの変化	<input type="checkbox"/> 有性生殖では、減数分裂・受精を経て遺伝子の組合せが変化すること、減数分裂の過程において遺伝子の組換えが起こることを理解している。	○				D
			<input type="checkbox"/> 減数分裂の過程を理解し、連鎖と組換えの仕組みや遺伝子の組み合わせの変化を説明することができる。	○				C
6	4節 進化のしくみ	<input type="checkbox"/> ショウジョウバエの交配実験の結果から、遺伝子の組み合わせが変化し、多様化していることを見いだすことができる。		○		B		
		<input type="checkbox"/> 遺伝子の組み合わせの変化に関心を持ち、主体的に学習に取り組むことができる。			○	A		
		<input type="checkbox"/> 自然選択と遺伝的浮動によって遺伝子頻度が変化することや、隔離を経て種分化が生じることを理解している。	○			D		
		<input type="checkbox"/> 鎌状赤血球貧血症とマラリアの発生に関連がある理由について考え、説明することができる。		○		C		
		<input type="checkbox"/> 進化の仕組みに関心を持ち、主体的に学習に取り組むことができる。			○	E		
		7	5節 生物の系統と進化	<input type="checkbox"/> ドメイン、界、門などの分類群について説明でき、塩基配列やアミノ酸配列によって生物の系統を推定できることを理解している。	○			D
<input type="checkbox"/> 特定のタンパク質のアミノ酸配列を比較することにより、その差異を基に生物の系統を推定できることを見いだすことができる。				○		B		
<input type="checkbox"/> 生物の系統と進化に関心を持ち、主体的に学習に取り組むことができる。					○	A		
6節 人類の系統と進化	<input type="checkbox"/> 人類の系統を理解し、類人猿とヒトの姿勢の違いや直立二足歩行の特徴を論理的に説明することができる。		○			D		
	<input type="checkbox"/> DNA塩基配列のデータを基に系統や分岐年代を推定することができる。			○		D		
	<input type="checkbox"/> 人類の系統と進化について関心を持ち主体的に学習に取り組むことができる。				○	C		
						期末試験		

## 2 学期

月	単元	生徒の到達目標・評価基準	評価の観点のポイント			評価方法	試験範囲	
			知識技能	思考判断表現	態度			
8・9	第2編 生命現象と物質						中間試験	
	第2章 細胞と分子	<input type="checkbox"/> 生物の基本単位である細胞の構造とその機能について、また、細胞を代表的な物質とその特徴について理解している。	○			D		
	1節 生体物質と細胞	<input type="checkbox"/> 生体膜（細胞膜）の構造やリン脂質分子の配置を理解し、説明することができる。		○		C		
		<input type="checkbox"/> ミトコンドリアや葉緑体が、核とは別な独自のDNAを持っている理由を説明することができる。		○		B		
		<input type="checkbox"/> 生体物質と細胞に関心をもち、主体的に学習に取り組むことができる。			○	E		
	9	2節 タンパク質の構造と性質	<input type="checkbox"/> 生命活動を担うタンパク質の構造、その構造と機能の関係について理解している。	○				D
			<input type="checkbox"/> タンパク質の立体構造が、タンパク質の機能と密接に関係していることを理解し、説明することができる。		○			C
			<input type="checkbox"/> タンパク質の構造と性質について関心をもち、主体的に学習に取り組むことができる。			○		A
	10	3節 化学反応にかかわるタンパク質	<input type="checkbox"/> 酵素の基本的な性質と、酵素がはたらく反応条件について理解している。	○				D
			<input type="checkbox"/> 酵素の活性を阻害する薬や熱による酵素の機能の変化について理解し、論理的に説明することができる。		○			C
10	4節 膜輸送や情報伝達にかかわるタンパク質	<input type="checkbox"/> 化学反応にかかわるタンパク質に関心をもち、主体的に学習に取り組むことができる。			○	E		
		<input type="checkbox"/> 生体膜を介した物質輸送と、それにかかわるタンパク質のはたらきについて理解している。	○			D		
		<input type="checkbox"/> 情報伝達にかかわる受容体タンパク質のはたらきについて理解している。	○			D		
		<input type="checkbox"/> 情報伝達物質を介した細胞間の情報伝達について理解し、伝達がうまくいかない場合の原因について、生命現象を例に挙げて説明することができる。		○		C		
11	第3章 代謝	<input type="checkbox"/> 膜輸送や情報伝達にかかわるタンパク質に関心をもち、主体的に学習に取り組むことができる。			○	E		
	1節 代謝とエネルギー	<input type="checkbox"/> 生体内で起こる化学反応の一部は酸化還元反応であり、反応に際して大きなエネルギーの出入りを伴うことを理解している。	○			D		
		<input type="checkbox"/> 酸化還元反応を伴う化学反応では、大きなエネルギーの出入りが起こることを理解し、論理的に説明することができる。		○		B		
		<input type="checkbox"/> 代謝とエネルギー（吸エルゴン・発エルゴン）に関心をもち、主体的に学習に取り組むことができる。			○	A		
	2節 呼吸と発酵	<input type="checkbox"/> 呼吸では有機物が酸化され、発酵では酸素を用いずに有機物が分解され、その際に取り出されたエネルギーを用いてATPが合成されることを理解している。	○			D		
11		<input type="checkbox"/> メチレンブルーの色の変化から、コハク酸から水素が奪われる現象を見取り、論理的に現象を説明することができる。	○	○		B	期末	

11・12	3節 光合成	<input type="checkbox"/> 呼吸と発酵では、グルコース1分子から得られるATP量に大きな違いがある理由を説明することができる。		○		C	試験
		<input type="checkbox"/> 呼吸基質と呼吸商の関係を理解し、化学反応式から呼吸商を推定することができる。	○	○		B	
		<input type="checkbox"/> 呼吸と発酵に興味をもち、主体的に学習に取り組むことができる。			○	A	
		<input type="checkbox"/> 光エネルギーを用いてATPとNADPHが合成され、これらを用いて二酸化炭素が還元されて有機物が生じることを理解している。	○			D	
		<input type="checkbox"/> 薄層クロマトグラフィーで光合成色素を分離できる。	○			B	
		<input type="checkbox"/> 光リン酸化と酸化的リン酸化の共通点を説明でき、ATP合成酵素の基本構造が原核生物や真核生物の間で共通している理由についても、仮説を立てて説明することができる。	○	○		C	
		<input type="checkbox"/> 光合成に関心をもち、主体的に学習に取り組むことができる。			○	A	

### 3 学期

月	単元	生徒の到達目標・評価基準	評価の観点のポイント			評価方法	試験範囲
			知識技能	思考判断表現	態度		
1 1・2 2 2 3	第2編 生命現象と物質						学年末試験
	4章 遺伝情報の発現と発生	<input type="checkbox"/> DNAの複製の仕組みを理解している。	○			D	
	1節 DNAの構造と複製	<input type="checkbox"/> 複製の法則を見出し、岡崎フラグメントが存在することを論理的に証明することができる。		○		B	
		<input type="checkbox"/> DNAの構造と複製に関心を持ち、主体的に学習に取り組むことができる。			○	E	
	2節 遺伝情報の発現	<input type="checkbox"/> 遺伝情報の発現の仕組みを理解している。	○			D	
		<input type="checkbox"/> 真核生物と原核生物の遺伝情報の発現過程を比較し、両者の違いを見いだすことができる。		○		C	
		<input type="checkbox"/> 遺伝情報の発現に関心を持ち、主体的に学習に取り組むことができる。			○	A	
	3節 遺伝子の発現調節	<input type="checkbox"/> 原核生物と真核生物それぞれにおいて、遺伝子の発現が調節される仕組みを理解している。	○			D	
		<input type="checkbox"/> ラクトースオペロンを例に、突然変異株について、DNAのどの領域に異常が生じて変異株となったのかを推定し、論理的に説明することができる。		○		B	
		<input type="checkbox"/> 遺伝子の発現調節に関心を持ち、主体的に学習に取り組むことができる。			○	A	
	4節 発生と遺伝子発現	<input type="checkbox"/> 発生の過程で、遺伝子の発現調節によって細胞が分化する仕組みを理解している。	○			D	
		<input type="checkbox"/> 同じ遺伝情報を持つ細胞が異なる細胞に分化する要因として、細胞質基質に含まれる物質が分裂の際に不均等に分配されることや、周囲の細胞からの誘導を受けることを理解し、論理的に説明することができる。	○	○		D	
		<input type="checkbox"/> 発生と遺伝子発現に関心を持ち、主体的に学習に取り組むことができる。			○	E	
	5節 遺伝子を扱う技術	<input type="checkbox"/> 遺伝子を扱う技術について、その原理と有用性を理解している。	○			D	
		<input type="checkbox"/> 人為的に遺伝子を組換える方法や、組換えが起こったことを検証する方法について理解している。	○			D	
		<input type="checkbox"/> 遺伝子組換え技術によって、ある生物の遺伝子を別の生物に発現させることができる理由を考え、論理的に説明することができる。		○		E	
	<input type="checkbox"/> mRNAワクチンと従来のワクチンを比較し、mRNAワクチンの利点や問題点について考え、論理的に説明することができる。		○		E		
	<input type="checkbox"/> 遺伝子を扱う技術に関心を持ち、主体的に学習に取り組むことができる。			○	A		
次年度以降：第4編 生物の環境応答 第5編 生態と環境							

科目名	体育	単位数	2	履修学年	2	必修
使用教科書	現代高等保健体育（大修館）					
副教材	現代高等保健体育ノート（大修館） ステップアップ高校スポーツ2024（大修館）					

学習の到達目標	<p>体育の見方・考え方を働かせ、課題を発見し、合理的、計画的な解決に向けた学習過程を通して、心と体を一体として捉え、生涯にわたって豊かなスポーツライフを継続するとともに、自己の状況に応じて体力の向上を図るための資質・能力を育成する。</p>
---------	---

評価の観点	評価の内容	評価方法
知識・技能	<p>運動の合理的、計画的な実践を通して、運動の楽しさや喜びを深く味わい、生涯にわたって運動を豊かに継続することができるようにするため、運動の多様性や体力の必要性について理解するとともに、それらの技能を身に付けている。</p>	B C D
思考・判断・表現	<p>生涯にわたって運動を豊かに継続するための課題を発見し、合理的・計画的な解決に向けて思考し判断するとともに、自己や仲間の考えたことを他者に伝えている。</p>	A C D
主体的に学習に取り組む態度	<p>運動における競争や協働の経験を通して、公正に取り組む、互いに協力する、自己の責任を果たす、参画する、一人一人の違いを大切にしようとするなどの意欲を育てるとともに、健康・安全を確保して、生涯にわたって継続して運動に親しむ態度を養っている。</p>	A B E
評価方法	<p>A 授業に対する意欲・態度 B 授業における発表 C スキルテスト・記録・ノート D 定期試験 E 課題等の提出</p>	

評価のためのルーブリック

		A	B	C	割合
		十分満足できる	おおむね満足できる	努力を要する	
知識・技能	スキルテスト	スキルテストでの得点が80%以上	スキルテストでの得点が50%以上	スキルテストでの得点が49%以下	40
	タイムトライアル	タイムトライアルの得点がとても優れている	タイムトライアルの得点が優れている	タイムトライアルの得点が劣る	
	知識テスト	得点が80%以上	得点が50%以上	得点が49%以下	
	成果発表	基本的な技術が十分身についており、実践できている。	基本的な技術の習得に粘り強く取り組み、実践できている。	基本的な技術の習得ができていない。	
断 思 考 表 現 判	レポート	分量も満たしており、内容にも工夫がみられ、十分表現がなされている	分量・内容ともに適切である。	分量が不十分であり、適切な内容ではない	30
	成果発表	行事等を含めた発表に向かう態度や表現が優れている	行事等を含めた発表に向かう態度が良好である。	積極的に発表を行おうとしていない	
体的 に 学 習 に 取 り 組 む 態	授業に対する意欲態度	授業の中で他の生徒との活動で中心となり、目的や目標を十分理解した上で授業に意欲的に取り組んでいることが評価されている	目的や目標を理解した上で授業に意欲的に取り組んでいることが評価されている	目的や目標を理解しておらず、授業に意欲的に取り組んでいないと評価されている	30
	授業における健康・安全への配慮	授業全体を通して、起こりうる怪我や事故等を予測し、他の生徒と協力して、健康・安全に対する配慮が十分なされている	自分の身の回りについて、健康・安全に対する配慮がなされている	健康・安全に対する配慮がなされておらず、怪我や事故につながる行動をとってしまっている	

保健体育科の育てたい資質能力

- (1) 向上心：目標に向かって挑戦し、自己をより高めようとする力
- (2) 協働力：他者と協力し、協働して物事を成し遂げる力
- (3) 継続力：途中であきらめず粘り強く取り組む力

小山西高校の育てたい資質能力

「思考力」「発信力」「探究力」「寛容性」「協働力」「主体性」「向上心」「継続力」

# 1 学期

月	単元	生徒の到達目標・評価基準	評価の観点のポイント			評価方法	試験範囲
			知識技能	思考判断表現	態度		
4	ガイダンス 体づくり運動	□体づくり運動に主体的に取り組むとともに、互いに助け合い高め合おうとすること、健康・安全を確保して取り組んでいる。		○		B	期末試験
5	○選択Ⅰ [コ・ル型…バ・スケトボ・ル、] [ネット型…バド・ミント、バレーボ・ル、卓球] [バ・スホ・ル型…ソフボ・ル]	□技術などの名称や行い方、競技会の仕方などを理解している。	○			C	
		□チームや自己の課題を発見し、合理的、計画的な解決に向けて工夫している。		○		A	
6		□球技の楽しさや喜びを味わうことができるよう、フェアプレイを大切にしようとしている。	○		○	B	
	○体育理論	□スポーツにおける技術と技能の違い、クローズドスキルとオープンスキルの違い、戦術・作戦・戦略の違いについて理解している。	○			D	
7		□技能と体力の関係、練習とトレーニングの基本原則、練習とトレーニング効果を上げるための5原則について説明することができる。		○		A	
	○選択Ⅱ 水泳・武道・ダンスから選択 [水泳…複数の泳法で長く泳ぐ] [武道…柔道・剣道] [ダンス…創作ダンス]	□自己に適した泳法の効率を高めて、泳ぐことができる。	○			C	
		□自己に適した得意技を用いた攻防が展開できる。					
		□特有の表現や踊りを身につけて、交流や発表ができる。					
		□生涯にわたって運動を豊かに実践するために、取り組み方を工夫している。		○	○	A	

## 2 学期

月	単元	生徒の到達目標・評価基準	評価の観点のポイント			評価方法	試験範囲
			知識技能	思考判断表現	態度		
8	○選択Ⅱ 水泳・武道・ダンスから選択 〔水泳…複数の泳法で長く泳ぐ〕 〔武道…柔道・剣道〕 〔ダンス…創作ダンス〕	□自己に適した泳法の効率を高めて、泳ぐことができる。	○			C	期末試験
9		□自己に適した得意技を用いた攻防が展開できる。					
9		□特有の表現や踊りを身につけて、交流や発表ができる。					
10	○陸上競技 ・長距離走 ・校内持久走大会 (男子20Km、女子15Km)	□生涯にわたって運動を豊かに実践するために、取り組み方を工夫している。		○	○	A	
10		□自己の課題に応じて適切な練習方法を選んでいる。	○			C	
11	○体育理論	□自己に適したペースを維持して走ることができる。					
11		□技能の上達過程を踏まえた効果的な練習法について説明することができる。		○		D	
12	○選択Ⅲ 〔コールド型…バスケットボール、ハンドボール、サッカー〕 〔ネット型…バドミントン、バレーボール、卓球〕 ※選択Ⅰと違う型を選択	□動きの開始と持続のメカニズム、筋活動のコントロールと状況判断について理解している。	○			A	
12		□技術などの名称や行い方、競技会の仕方などを理解している。	○			C	
12		□チームや自己の課題を発見し、合理的、計画的な解決に向けて工夫している。		○		A	
		□球技の楽しさや喜びを味わうことができるよう、フェアプレイを大切にしようとしている。	○		○	B	



### 3 学期

月	単元	生徒の到達目標・評価基準	評価の観点のポイント			評価方法	試験範囲
			知識 技能	思考 判断 表現	態度		
1	○体育理論	<input type="checkbox"/> 体カトレーニングを支える基礎理論、体カトレーニングの進め方を理解している。	○			D	学 年 末 試 験
		<input type="checkbox"/> 運動・スポーツによるけがの危険性を理解し、障害防止の観点から運動やスポーツを行う際の注意事項を説明することができる。		○		A	
2	○選択Ⅲ 【ボール型…バスケットボール、ハンドボール、サッカー】 【ネット型…バドミントン、バレーボール、卓球】 ※選択Ⅰと違う型を選択	<input type="checkbox"/> 技術などの名称や行い方、競技会の仕方などを理解している。	○			C	
		<input type="checkbox"/> チームや自己の課題を発見し、合理的、計画的な解決に向けて工夫している。		○		A	
3		<input type="checkbox"/> 球技の楽しさや喜びを味わうことができるよう、フェアプレイを大切にしようとしている。	○		○	B	

科目名	保健	単位数	1	履修学年	2	必修
使用教科書	現代高等保健体育（大修館）					
副教材	現代高等保健体育ノート（大修館）					

評価の観点	評価の内容	評価方法
関心・意欲・態度	生涯の各段階における健康課題への自らの適切な対応及び我が国の保健・医療制度や機関の適切な活用が重要であることに関心をもち、学習活動に意欲的に取り組もうとしている。社会生活における健康の保持増進には、環境と健康、環境と食品の保健、労働と健康に関する活動や対策が重要であることに関心をもち、学習活動に意欲的に取り組もうとしている。	A B E
思考・判断・表現	生涯の各段階における健康課題の解決を目指して、知識を活用した学習活動などにより、総合的に考え、判断し、それらを表している。社会生活における健康の保持増進に関わる課題の解決を目指して、知識を活用した学習活動などにより、総合的に考え、判断し、それらを表している。	A B C
知識・理解	生涯の各段階における健康課題の解決に役立つ自らの適切な対応及び我が国の保健・医療制度や機関の適切な活用のための基礎的な事項を理解している。社会生活における健康の保持増進に関する課題の解決に役立つ環境と健康、環境と食品の保健、労働と健康に関する活動や対策についての基礎的な事項を理解している。	B C D
評価方法	<b>A 授業に対する意欲・態度</b> <b>B 授業における意見発表</b> <b>C ノート</b> <b>D 定期試験</b> <b>E 課題等の提出</b>	

# 1 学期

月	単元	生徒の到達目標・評価基準	評価の観点のポイント			評価方法	試験範囲
			知識技能	思考判断表現	態度		
4	ライフステージと健康 思春期と健康 性意識と性行動の選択	<input type="checkbox"/> 各ライフステージと健康課題を理解し、社会支援について説明することができる。	○			B	期末試験
		<input type="checkbox"/> 思春期における体の変化、思春期における心の変化と健康課題について理解している。	○			A	
5		<input type="checkbox"/> 性意識の男女差、性に関する情報が性行動の選択に影響を及ぼすことについて理解している。		○	○	B	
6	妊娠・出産と健康 避妊法と人工妊娠中絶	<input type="checkbox"/> 妊娠・出産の過程における健康課題について学び、母子保健サービスについて説明することができる。	○	○		D	
7		<input type="checkbox"/> 家族計画の意義を学び、適切な避妊法と人工妊娠中絶が心身に及ぼす影響について説明することができる。	○		○	D	
	結婚生活と健康 中高年期と健康	<input type="checkbox"/> 心身の発達と結婚生活、家族の健康について理解している。	○			C	
		<input type="checkbox"/> 加齢に伴う心身の変化について、形態、機能の両面から理解し、高齢社会に必要な取り組みを説明することができる。		○		D	

## 2 学期

月	単元	生徒の到達目標・評価基準	評価の観点のポイント			評価方法	試験範囲
			知識技能	思考判断表現	態度		
8	働くことと健康	<input type="checkbox"/> 働くことの意義と労働と健康問題について理解している。	○		○	B	期末試験
9	労働災害と健康 健康的な職業生活	<input type="checkbox"/> 労働災害の原因と予防法について理解し、日常生活での健康増進や余暇の有効な過ごし方について説明できる。	○		○	C	
10	大気汚染と健康 水質汚濁、土壌汚染と健康	<input type="checkbox"/> 環境汚染の現状について学びその原因と健康被害について説明できる。	○	○		B	
11	環境と健康にかかわる対策 ごみの処理と上下水道の整備 食品の安全性	<input type="checkbox"/> 環境汚染の現状と防止のための取り組みについて学び、私たちの生活の中で課題について理解している。		○	○	D	
		<input type="checkbox"/> ごみの処理の現状とその課題、上下水道の整備とし尿の処理について理解し、説明することができる。	○			C	
12	食品衛生にかかわる活動 保健サービスとその活用	<input type="checkbox"/> 食品の安全性について理解し、行政、生産・製造者による衛生管理について理解している。			○	D	
		<input type="checkbox"/> 保健行政の役割としくみについて学び、適切な活用できる。	○	○		B	

### 3 学期

月	単元	生徒の到達目標・評価基準	評価の観点のポイント			評価方法	試験範囲
			知識技能	思考判断表現	態度		
1	医療サービスとその活用	<input type="checkbox"/> 医療保険の仕組みや医療機関の選び方、医療サービスの内容を理解し活用できる。	○		○	D	学年末試験
2	医薬品の制度とその活動	<input type="checkbox"/> 医薬品の正しい使用法、医薬品の安全性を確保する対策について理解している。	○	○		B	
3	さまざまな保健活動や社会的対策 健康に関する環境づくりと社会参加	<input type="checkbox"/> 健康課題に対する保健活動と社会的対策について理解している。			○	C	
		<input type="checkbox"/> 健康の保持増進のための社会環境づくりの意義を理解し、適切に活用できる。	○	○		A	

科目名	英語 コミュニケーションⅡ	単位数	4	履修学年	2	必修
使用教科書	Grove English Communication Ⅱ (文英堂)					
副教材	ワークブック・英単語帳・速読問題集・課題用問題集等					

学習の到達目標	<p>ア 日常的・社会的な話題について、一定の支援を活用すれば、必要な情報を聞き取り、話し手の意図を把握したり、概要や要点を目的に応じて捉えたりすることができる。</p> <p>イ 日常的・社会的な話題について、一定の支援を活用すれば、必要な情報を読み取り、書き手の意図を把握したり、概要や要点を目的に応じて捉えたりすることができる。</p> <p>ウ 日常的・社会的な話題について、一定の支援を活用すれば、情報や考え、気持ちなどを話して伝え合うやり取りを続けたり、論理性に注意して話して伝え合ったりすることができる。</p> <p>エ 日常的・社会的な話題について、一定の支援を活用すれば、情報や考え、気持ちなどを論理性に注意して話して伝えることができる。</p> <p>オ 日常的・社会的な話題について、一定の支援を活用すれば、情報や考え、気持ちなどを論理性に注意して書いて伝えることができる。</p>
---------	---

評価の観点	評価の内容	評価方法
知識・技能	外国語の音声や語彙、表現、文法、言語の働きなどの理解を深めるとともに、これらの知識を、聞くこと、読むこと、話すこと、書くことによる実際のコミュニケーションにおいて、目的や場面、状況などに応じて適切に活用する技能を身に付けている。	C D
思考・判断・表現	コミュニケーションを行う目的や場面、状況などに応じて、日常的话题や社会的な話題について、外国語で情報や考えなどの概念や要点、詳細、話し手や書き手の意図などを的確に理解したり、これらを活用して適切に表現したり伝え合ったりする力を身に付けている。	C D
主体的に学習に取り組む態度	外国語の背景にある文化に対する理解を深め、聞き手、読み手、話し手、書き手に配慮しながら、主体的、自律的に外国語を用いてコミュニケーションを図ろうとする態度を身に付けている。	A B C E
評価方法	<p>A 授業に対する意欲・態度</p> <p>B 授業におけるペアワーク・グループワークへの取り組み</p> <p>C 小テスト</p> <p>D 定期試験</p> <p>E 課題等の提出</p>	

評価のためのルーブリック

		A	B	C
		十分満足できる	おおむね満足できる	努力を要する
知識・技能	中間試験①	知識・技能をはかる問題の正答率が75%以上	知識・技能をはかる問題の正答率が40～74%	知識・技能をはかる問題の正答率が39%以下
	期末試験①	知識・技能をはかる問題の正答率が75%以上	知識・技能をはかる問題の正答率が40～74%	知識・技能をはかる問題の正答率が39%以下
	小テスト①（主に知識に関するもの）	各小テストでの平均点が70%以上	各小テストでの平均点が60%～69%	各小テストでの平均点が59%以下
思考・判断・表現	中間試験②	思考・判断・表現をはかる問題の正答率が75%以上	思考・判断・表現をはかる問題の正答率が40～74%	思考・判断・表現をはかる問題の正答率が39%以下
	期末試験②	思考・判断・表現をはかる問題の正答率が75%以上	思考・判断・表現をはかる問題の正答率が40～74%	思考・判断・表現をはかる問題の正答率が39%以下
	小テスト②（主に表現に関するもの）	十分に準備をして、テストに臨み、表現力も豊かである	準備はしたが、思うような表現ができていない	準備が不十分である
主体的に学習に取り組む態度	授業に対する意欲態度	自己・他者評価により、授業に意欲的に取り組み、ワークシートやノートをしっかり取っていることが評価されている	自己・他者評価により、授業に意欲的に取り組んでいることが評価されている	自己・他者評価により、授業に意欲的に取り組んでいないと判断されている
	授業におけるペアワーク・グループワークへの取り組み	自己・他者評価により、意欲的な取り組みが評価されている	自己・他者評価により、やるべき活動をこなしていることが評価されている	自己・他者評価により、やるべき活動をこなしていないと判断されている
	課題	すべての課題が提出され、意欲的な取り組みが見てとれる	おおむねすべての課題が提出されている	課題が提出されていない
	小テスト③（主に課題への取り組み状況を見るもの）	課題に意欲的に取り組んだことが見てとれる	課題におおむね真面目に取り組んだことが見てとれる	課題への意欲が見られない

<b>英語科の育てたい資質能力</b>
(1) 主体性：主体的・計画的に学習・行動しようとする力
(2) 思考力：物事を論理的に考え、根拠にもとづき主体的に判断する力
(3) 発信力：自分の意見や学んだことを的確に表現し他者に伝える力
<b>小山西高校の育てたい資質能力</b>
「思考力」「発信力」「探究力」「寛容性」「協働力」「主体性」「向上心」「継続力」

※評価のためのルーブリックの数値は必要に応じて調整する。

1 学期

月	単元	生徒の到達目標・評価基準 R: 読むこと★ L: 聞くこと W: 書くこと I: 話すこと(やり取り)★ P: 話すこと(発表)★ ※★は特に身につけてほしい技能	評価の観点			評価方法	試験範囲	
			知識技能	思考判断表現	態度			
4	LESSON 1 Breakfast Around the World	R	<input type="checkbox"/> 国や地域で違う朝食の特色について知り、朝食の背景にある食文化や食習慣の違いについて理解することができる。	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	D	中間試験	
		L	<input type="checkbox"/> 「S+V」「S+V+C」「S+V+O」「S+V+O1+O2」「S+V+O+C」の文型、動名詞を理解し、読むことができる。 <input type="checkbox"/> 世界の朝食や食文化・食習慣に関する本文を聞いて概要や要点をとらえることができる。 <input type="checkbox"/> 本文に関連する文を聞いて内容を理解し、その正誤を判断することができる。			○		A
		W	<input type="checkbox"/> 「S+V」「S+V+C」「S+V+O」「S+V+O1+O2」「S+V+O+C」の文型や動名詞を用いた文を完成させることができる。 <input type="checkbox"/> レッスン要約文の空欄に、適切な語をあてはめて書くことができる。 <input type="checkbox"/> 英語の質問に対する答えの文を書くことができる。			○		A
		I	<input type="checkbox"/> 本文を声に出して読むことができる。 <input type="checkbox"/> 世界の朝食や食文化・食習慣などについて意見を交換することができる。			○		B
		P	<input type="checkbox"/> 本文の内容を理解し、自分の言葉で英文を組み立て、発表することができる。		○	○		C
5	LESSON 2 What Makes You a Good Street Dancer?	R	<input type="checkbox"/> ストリートダンスとその上達のポイントについて、必要な情報を読み取ることができる。 <input type="checkbox"/> 完了形・進行形・完了進行形を含む文を読んで意味を理解することができる。	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	D	中間・ 期末試験	
		L	<input type="checkbox"/> ストリートダンスに関する本文を聞き概要や要点をとらえることができる。 <input type="checkbox"/> 本文に関連する文を聞いて内容を理解し、その正誤を判断することができる。			○		A
		W	<input type="checkbox"/> 完了形・進行形・完了進行形を含む文を完成させることができる。 <input type="checkbox"/> レッスン要約文の空欄に、適切な語をあてはめて書くことができる。 <input type="checkbox"/> 英語の質問に対する答えの文を書くことができる。			○		A
		I	<input type="checkbox"/> 本文を声に出して読むことができる。 <input type="checkbox"/> ストリートダンスとその上達のポイントについての自分の考えを短い文で話すことができる。			○		B
6	LESSON 3 Volunteering and Music Bring Us Together	R	<input type="checkbox"/> 若者をボランティアに参加させるロックコープスの活動やボランティア参加者の意識について理解することができる。 <input type="checkbox"/> 助動詞・助動詞+完了形・to不定詞を含む文を読んで理解することができる。	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	D	期末試験	
		L	<input type="checkbox"/> ロックコープスの活動やボランティアに関する本文を聞いて概要や要点をとらえることができる。 <input type="checkbox"/> 本文に関連する文を聞いて内容を理解し、その正誤を判断することができる。			○		A
		W	<input type="checkbox"/> 助動詞・助動詞+完了形・to不定詞を含む文を完成させることができる。 <input type="checkbox"/> レッスンの要約文の空欄に、適切な語をあてはめて書くことができる。			○		A
		I	<input type="checkbox"/> 本文を声に出して読むことができる。 <input type="checkbox"/> ロックコープスの活動やボランティアについて意見を交換することができる。			○		B
		P	<input type="checkbox"/> 本文の内容を理解し、自分の言葉で英文を組み立て、発表することができる。		○	○		C
7	LESSON 4 Zoos — Roles and Challenges	R	<input type="checkbox"/> 動物園の役割と新たな取り組みについて理解することができる。 <input type="checkbox"/> 受け身を理解することができる。	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	D	期末試験	
		L	<input type="checkbox"/> 動物園の役割・課題と取り組みに関する本文を聞いて概要や要点をとらえることができる。 <input type="checkbox"/> 本文に関連する文を聞いて内容を理解し、その正誤を判断することができる。			○		A
		W	<input type="checkbox"/> 受け身(SV00/SVOC)・助動詞を含む進行形の文を完成させることができる。 <input type="checkbox"/> レッスンの要約文の空欄に、適切な語をあてはめて書くことができる。			○		A
		I	<input type="checkbox"/> 本文を声に出して読むことができる。 <input type="checkbox"/> 動物に対する知識や体験・動物園の存在意義について意見を交換することができる。			○		B
		P	<input type="checkbox"/> 本文の内容を理解し、自分の言葉で英文を組み立て、発表することができる。		○	○		C



## 2 学期

月	単元	生徒の到達目標・評価基準 R: 読むこと★ L: 聞くこと W: 書くこと I: 話すこと(やり取り)★ P: 話すこと(発表)★ ※★は特に身につけてほしい技能				評価の観点			評価方法	試験範囲
						知識技能	思考判断表現	態度		
8 9	LESSON 5 Paper Can Change the Future	R	<input type="checkbox"/> 紙の歴史と環境問題について読み取ることができる。 <input type="checkbox"/> 分詞の形容詞的用法, 「S+V+(O+)(=that節)」 「S+V+C(=that節)」の表現を理解して, 読むことができる。	○	○		D	中間試験		
		L	<input type="checkbox"/> 紙の歴史と環境への取り組み関する本文を聞いて必要な情報を聞き取ることができる。 <input type="checkbox"/> 本文に関連する文を聞いて内容を理解し, その正誤を判断することができる。 <input type="checkbox"/> 教師や友人が話すことを聞いて内容を理解することができる。			○	A			
		W	<input type="checkbox"/> 分詞の形容詞的用法・【SV00(=that節)】・【SVC(=that節)】を含む文を完成させることができる。 <input type="checkbox"/> レッスン要約文の空欄に, 適切な語をあてはめて書くことができる。 <input type="checkbox"/> 英語の質問に対する答えの文を書くことができる。			○	A			
		I	<input type="checkbox"/> 紙の用途や紙で作りたいものについて意見を交換することができる。			○	B			
10 11	LESSON 6 Our Advanced Network Society	R	<input type="checkbox"/> ネットワーク社会の利便性と危険性について, また先端技術の進化によってひらかれる未来について読み取ることができる。 <input type="checkbox"/> 「S+V+O+C (=to不定詞・分詞・原形不定詞)」 「S+V+C(=seemなど)+to 不定詞」の表現を含む文を読んで意味を理解することができる。 <input type="checkbox"/> 質問に対する答えを捜しながら本文をスキミングすることができる。	○	○		D	中間・期末試験		
		L	<input type="checkbox"/> ネットワーク社会に関する本文を聞いて概要や要点をとらえることができる。 <input type="checkbox"/> 本文に関連する文を聞いて内容を理解し, その正誤を判断することができる。			○	A			
		W	<input type="checkbox"/> 「S+V+O+C (=to不定詞・分詞・原形不定詞)」 「S+V+C(=seemなど)+to不定詞」を含む文を完成させることができる。 <input type="checkbox"/> 英語の質問に対する答えの文を書くことができる。 <input type="checkbox"/> ネットワーク社会に関する自分の考えを60語程度の英文で表現することができる。			○	A			
		I	<input type="checkbox"/> 本文を声に出して読むことができる。			○	B			
		P	<input type="checkbox"/> 本文の内容を理解し, 自分の言葉で英文を組み立て, 発表することができる。		○	○	C			
12	LESSON 7 Connecting with People	R	<input type="checkbox"/> 人と人とのつながりの大切さについて読み取り, 概要や要点, 詳細を目的に応じてとらえることができる。 <input type="checkbox"/> 比較 (as~as/not as~ as) の表現, 関係代名詞の用法などを含む文を読んで意味を理解することができる。 <input type="checkbox"/> 質問に対する答えを捜しながら本文をスキミングすることができる。	○	○		D	期末試験		
		L	<input type="checkbox"/> 社会的なつながりが人に与える影響について必要な情報を聞き取ることができる。 <input type="checkbox"/> 本文に関連する文を聞いて内容を理解し, その正誤を判断することができる。 <input type="checkbox"/> 教師や友人が話すことを聞いて内容を理解することができる。			○	A			
		W	<input type="checkbox"/> 比較 (as~as/not as~ as) の表現, 関係代名詞の用法などを含む文を完成させることができる。 <input type="checkbox"/> レッスン要約文の空欄に, 適切な語をあてはめて書くことができる。 <input type="checkbox"/> 英語の質問に対する答えの文を書くことができる。			○	A			
		I	<input type="checkbox"/> 本文を声に出して読むことができる。			○	B			
		P	<input type="checkbox"/> 本文の内容を理解し, 自分の言葉で英文を組み立て, 発表することができる。		○	○	C			

### 3 学期

月	単元	生徒の到達目標・評価基準 R：読むこと★ L：聞くこと W：書くこと I：話すこと（やり取り）★ P：話すこと（発表）★ ※★は特に身につけてほしい技能	評価の観点			評価方法	試験範囲
			知識技能	思考判断表現	態度		
1 2 3	LESSON 8 Practice Makes Perfect: A Japanese Baker's World Victory	R	<input type="checkbox"/> 大澤秀一さんの行動と意思を読み取り、文章の展開や書き手の意図や概要、要点をとらえることができる。 <input type="checkbox"/> 関係副詞その用法、分詞構文を含む文を読んで意味を理解できる。 <input type="checkbox"/> 質問に対する答えを捜しながら本文をスキミングすることができる。	○	○		D
		L	<input type="checkbox"/> 大澤さんが国際製パンコンテストに挑むまでの経緯等について、必要な情報を聞きとることができる。 <input type="checkbox"/> 本文に関連する文を聞いて内容を理解し、その正誤を判断することができる。 <input type="checkbox"/> 教師や友人が話すことを聞いて内容を理解することができる。			○	A
		W	<input type="checkbox"/> 関係副詞、分詞構文などを含む文を完成させることができる。 <input type="checkbox"/> レッスン要約文の空欄に、適切な語をあてはめて書くことができる。 <input type="checkbox"/> 偉業を成し遂げた人物について、60語程度の英文で表現することができる。			○	A
		I	<input type="checkbox"/> 自分がやってみたくいことや成し遂げたいと考えていることについて意見を交換することができる。			○	B
		P	<input type="checkbox"/> 偉業を成し遂げた人物について調べ、自分の考えとともに発表することができる。		○	○	C
	LESSON 9 The World Without Honeybees	R	<input type="checkbox"/> ミツバチの有益性に関する本文を読んで概要や要点をとらえることができる。 <input type="checkbox"/> 仮定法過去・過去完了、ifのない仮定法を含む表現を含む文を読んで意味を理解することができる。 <input type="checkbox"/> 質問に対する答えを捜しながら本文をスキミングすることができる。	○	○		D
		L	<input type="checkbox"/> ミツバチの有益性とその減少・消滅によって起こる危機に関する本文を聞いて概要や要点をとらえることができる。 <input type="checkbox"/> 教師や友人が話すことを聞いて内容を理解することができる。			○	A
		W	<input type="checkbox"/> 仮定法過去・過去完了、Ifのない仮定法を含む文を完成させることができる。 <input type="checkbox"/> レッスン要約文の空欄に、適切な語をあてはめて書くことができる。 <input type="checkbox"/> 絶滅危惧種について調べ、その対策等について60語程度の英文で表現することができる。			○	A
		I	<input type="checkbox"/> ミツバチの消滅や絶滅危惧種の原因と対策などについて意見を交換することができる。			○	B
		P	<input type="checkbox"/> 絶滅危惧種について調べ、その対策等について発表することができる。		○	○	C
	LESSON 10 The Forth Bridge: An Iconic Landmark in Scotland	R	<input type="checkbox"/> フォース橋の歴史と建造時の挑戦に関する本文を読んで概要や要点をとらえることができる。 <input type="checkbox"/> 例置、省略、同格のthat、付帯状況のwithを含む文を読んで意味を理解できる。	○	○		D
		L	<input type="checkbox"/> フォース橋などに関する本文を聞いて概要や要点をとらえることができる。 <input type="checkbox"/> 教師や友人が話すことを聞いて内容を理解することができる。			○	A
		W	<input type="checkbox"/> 例置、省略、同格のthat、付帯状況のwithなどを含む文を完成させることができる。 <input type="checkbox"/> レッスン要約文の空欄に、適切な語をあてはめて書くことができる。 <input type="checkbox"/> 世界で活躍する日本人について60語程度の英文で表現することができる。			○	A
		I	<input type="checkbox"/> 渡邊嘉一さんについて自分の考えを意見交換したり、会話したりすることができる。			○	B
		P	<input type="checkbox"/> 世界で活躍する日本人について調べ、自分の考えとともに発表することができる。		○	○	C

学年末試験

※ Lesson 8～10は全て実施せず、選択になる予定。

※ 原則として一つの単元（題材）で全ての観点について評価することとなるが、学習内容（小単元）の各項目において重点的に評価を行う観点（もしくは重み付けを行う観点）について○を付けている。

科目名	論理・表現Ⅱ	単位数	2	履修学年	2	必修
使用教科書	MY WAY Logic and Expression Ⅱ (三省堂)					
副教材	英語構文(問題集)・リスニング教材					

学習の到達目標	<p>ア 日常的・社会的な話題について、一定の支援を活用すれば、基本的な語句や文を用いて、文脈にあった質問や答えを続けることで、情報や考え、気持ちなどを、やり取りを通して伝え合うことができる。</p> <p>イ 日常的・社会的な話題について、一定の支援を活用すれば、論理の構成や展開を工夫することで、情報や考え、気持ちなどを、話して伝えることができる。</p> <p>ウ 日常的・社会的な話題について、一定の支援を活用すれば、論理の構成や展開を工夫することで、情報や考え、気持ちなどを、書いて伝えることができる。</p>
---------	--

評価の観点・内容および評価方法

評価の観点	評価の内容	評価方法
知識・技能	外国語の音声や語彙、表現、文法、言語の働きなどの理解を深めるとともに、これらの知識を、聞くこと、読むこと、話すこと、書くことによる実際のコミュニケーションにおいて、目的や場面、状況などに応じて適切に活用する技能を身に付けている。	C D
思考・判断・表現	コミュニケーションを行う目的や場面、状況などに応じて、日常的な話題や社会的な話題について、外国語で情報や考えなどの概念や要点、詳細、話し手や書き手の意図などを的確に理解したり、これらを活用して適切に表現したり伝え合ったりする力を身に付けている。	C D
主体的に学習に取り組む態度	外国語の背景にある文化に対する理解を深め、聞き手、読み手、話し手、書き手に配慮しながら、主体的、自律的に外国語を用いてコミュニケーションを図ろうとする態度を身に付けている。	A B C E
評価方法	<p>A 授業に対する意欲・態度</p> <p>B 授業におけるペアワーク・グループワークへの取り組み</p> <p>C 小テスト</p> <p>D 定期試験</p> <p>E 課題等の提出</p>	

評価のためのルーブリック

		A	B	C
		十分満足できる	おおむね満足できる	努力を要する
知識・技能	中間試験①	知識・技能をはかる問題の正答率が75%以上	知識・技能をはかる問題の正答率が40～74%	知識・技能をはかる問題の正答率が39%以下
	期末試験①	知識・技能をはかる問題の正答率が75%以上	知識・技能をはかる問題の正答率が40～74%	知識・技能をはかる問題の正答率が39%以下
	小テスト①（主に知識に関するもの）	各小テストでの平均点が70%以上	各小テストでの平均点が60%～69%	各小テストでの平均点が59%以下
思考・判断・表現	中間試験②	思考・判断・表現をはかる問題の正答率が75%以上	思考・判断・表現をはかる問題の正答率が40～74%	思考・判断・表現をはかる問題の正答率が39%以下
	期末試験②	思考・判断・表現をはかる問題の正答率が75%以上	思考・判断・表現をはかる問題の正答率が40～74%	思考・判断・表現をはかる問題の正答率が39%以下
	小テスト②（主に表現に関するもの）	十分に準備をして、テストに臨み、表現力も豊かである	準備はしたが、思うような表現ができていない	準備が不十分である
主体的に学習に取り組む態度	授業に対する意欲態度	自己・他者評価により、授業に意欲的に取り組み、ワークシートやノートをしっかり取っていることが評価されている	自己・他者評価により、授業に意欲的に取り組んでいることが評価されている	自己・他者評価により、授業に意欲的に取り組んでいないと判断されている
	授業におけるペアワーク・グループワークへの取り組み	自己・他者評価により、意欲的な取り組みが評価されている	自己・他者評価により、やるべき活動をこなしていることが評価されている	自己・他者評価により、やるべき活動をこなしていないと判断されている
	課題	すべての課題が提出され、意欲的な取り組みが見てとれる	おおむねすべての課題が提出されている	課題が提出されていない
	小テスト③（主に課題への取り組み状況を見るもの）	課題に意欲的に取り組んだことが見てとれる	課題におおむね真面目に取り組んだことが見てとれる	課題への意欲が見られない

<b>英語科の育てたい資質能力</b>
(1) 主体性：主体的・計画的に学習・行動しようとする力
(2) 思考力：物事を論理的に考え、根拠にもとづき主体的に判断する力
(3) 発信力：自分の意見や学んだことを的確に表現し他者に伝える力
<b>小山西高校の育てたい資質能力</b>
「思考力」「発信力」「探究力」「寛容性」「協働力」「主体性」「向上心」「継続力」

※評価のためのルーブリックの数値は必要に応じて調整する。

# 1 学期

月	単元	生徒の到達目標・評価基準 R:読むこと L:聞くこと★ W:書くこと★ I:話すこと(やり取り) P:話すこと(発表) ※★は特に身につけてほしい技能		評価の観点			評価方法	試験範囲
				知識技能	思考判断表現	態度		
4	Lesson 1 I Love My Country!	R	<input type="checkbox"/> 自分の経験や好きな場所についての英文を読み、内容を理解することができる。	○	○		D	中間試験
		L	<input type="checkbox"/> 自分の経験や自分の好きな場所についての二人の対話を聞き取り、理解することができる。			○	A	
		W	<input type="checkbox"/> これまでの経験について、現在完了や過去完了等を用いて情報や自分の考えを書くことができる。 <input type="checkbox"/> 自分の好きな場所について、情報や自分の考えを整理し、詳しく書くことができる。	○	○		D	
		I	<input type="checkbox"/> 昨年の思い出と今年の計画について伝え合うことができる。			○	B	
5	Lesson 2 The New Wave of Sports	R	<input type="checkbox"/> 週末の予定や最新のものについての英文を読み、内容を理解することができる。	○	○		D	
		L	<input type="checkbox"/> 週末の予定や最新のものについての会話を聞き取り、理解することができる。			○	A	
		W	<input type="checkbox"/> 助動詞を用いた表現を用いて、身近な人や物事についての文を書くことができる。 <input type="checkbox"/> 最新のものについて(助動詞+have+過去分詞)、(be動詞+to不定詞)等を用いて英文を書くことができる。 <input type="checkbox"/> 《助動詞+have+過去分詞》、《be動詞+to不定詞》のきまりを理解し、活用することができる。		○	○	C	
		I	<input type="checkbox"/> スポーツ大会の会場への道順について、施設や行き方を伝え合うことができる。			○	B	
6	Lesson 3 The Future of Technology	R	<input type="checkbox"/> 印象深かった授業や贈り物についてを述べた英文を読み、内容を理解することができる。	○	○		D	期末試験
		L	<input type="checkbox"/> 印象深かった授業や贈り物についての二人の対話を聞き取り、理解することができる。			○	A	
		W	<input type="checkbox"/> 受動態を用いて身近な人やものごとについて複数の文を書くことができる。 <input type="checkbox"/> 贈り物について、不定詞を用いて情報や自分の考えを整理し、詳しく書くことができる。	○	○		D	
		I	<input type="checkbox"/> 印象深かった授業について伝え合うことができる。			○	B	
7	Lesson 4 Rediscover Kabuki	R	<input type="checkbox"/> 歌舞伎などの日本文化についての英文を読み、内容を理解することができる。	○	○		D	
		L	<input type="checkbox"/> 歌舞伎などの日本文化についての会話を聞き取り、内容を理解することができる。			○	A	
		W	<input type="checkbox"/> 不定詞(進行形・受動態・完了形の不定詞、原形不定詞)を用いて身近な人やものごとについての文を書くことができる。 <input type="checkbox"/> 日本の文化について、知覚動詞、使役動詞を用いて、情報や自分の考えを整理し、詳しく書くことができる。		○	○	C	
		I	<input type="checkbox"/> 日本の文化について、知覚動詞、使役動詞を用いて、情報や自分の考えを整理し、詳しく伝え合うことができる。					
		P	<input type="checkbox"/> 日本の文化について紹介することができる。			○	B	

## 2 学期

月	単元	生徒の到達目標・評価基準 R:読むこと L:聞くこと★ W:書くこと★ I:話すこと(やり取り) P:話すこと(発表) ※★は特に身につけてほしい技能		評価の観点			評価方法	試験範囲	
				知識技能	思考判断表現	態度			
8 9	Lesson 5 Will Our Lives Change with AI?	R	<input type="checkbox"/> 無人レジや将来の社会の状況についての英文を読み、内容を理解することができる。	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>		D	中間試験	
		L	<input type="checkbox"/> 無人レジや将来の社会の状況についての二人の対話を聞き取り、内容を理解することができる。			<input type="radio"/>	A		
		W	<input type="checkbox"/> いろいろな科学技術について、動名詞等を用いて情報や自分の考えを書くことができる。 <input type="checkbox"/> 分詞構文、(with+0+分詞)のきまりについて理解し、それを用いて身近な人やものごとについて複数の文を書くことができる。		<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	C		
		I	<input type="checkbox"/> 将来の社会の状況と職業について、情報や自分の考えを伝え合うことができる。			<input type="radio"/>	B		
10	Lesson 6 Experience Madagascar's Wildlife	R	<input type="checkbox"/> ものの大きさや世界や日本で有名な場所について述べた英文を読み、内容を理解することができる。	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>		D		
		L	<input type="checkbox"/> マダガスカル島についての二人の対話を聞き取り、内容を理解することができる。			<input type="radio"/>	A		
		W	<input type="checkbox"/> 比較(倍数表現・比較の強調)、(the+序数+最上級)を用いて、身近な人や物事について書くことができる。 <input type="checkbox"/> 世界や日本で有名な場所について、比較などを用いて、情報や自分の考えを整理し、詳しく書くことができる。	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>		D		
		P	<input type="checkbox"/> 世界や日本の有名な場所について、比較の表現を用いて紹介することができます。			<input type="radio"/>	A		
11	Lesson 7 Can We Go and Live on Mars?	R	<input type="checkbox"/> 火星や火星での生活について述べた英文を読み、内容を理解することができる。	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>		D		期末試験
		L	<input type="checkbox"/> 火星や火星での生活についての会話を聞き取り、内容を理解することができる。			<input type="radio"/>	A		
		W	<input type="checkbox"/> 関係代名詞や関係副詞のきまりについて理解し、それを用いて身近な人やものごとについて複数の文を書くことができる。 <input type="checkbox"/> 火星について、関係代名詞・関係副詞を用いて、情報や自分の考えを書くことができる。		<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	C		
		I	<input type="checkbox"/> 火星での生活について、情報や自分の考えを伝え合うことができる。			<input type="radio"/>	A		
12	Lesson 8 Language and Society	R	<input type="checkbox"/> イギリスとカナダで使われる英語の違いについて述べた英文を読み、内容を理解することができる。	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>		D		
		L	<input type="checkbox"/> イギリスとカナダで使われる英語の違いについての会話を聞き取り、内容を理解することができる。			<input type="radio"/>	A		
		W	<input type="checkbox"/> 仮定法のきまりを理解し、身近な人やものごとについて複数の文を書くことができる。 <input type="checkbox"/> 「もし〇〇がなかったら」という仮定法を表す表現を用いて、情報や自分の考えを書くことができる。		<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	C		
		I	<input type="checkbox"/> 外国について、仮定法や旅行先でできることを表す表現などを用いて、情報や自分の考えなどを伝え合うことができる。			<input type="radio"/>	A		

### 3 学期

月	単元	生徒の到達目標・評価基準 R:読むこと L:聞くこと★ W:書くこと★ I:話すこと(やり取り) P:話すこと(発表) ※★は特に身につけてほしい技能		評価の観点			評価方法	試験範囲
				知識技能	思考判断表現	態度		
1	Lesson 9 Send Our Love to the World	R	<input type="checkbox"/> 世界の貧困問題や食の不均衡の問題について述べた英文を読み、内容を理解することができる。	○	○		D	学年末試験
		L	<input type="checkbox"/> 世界の貧困問題や食の不均衡の問題についての会話を聞き取り、内容を理解することができる。			○	A	
		W	<input type="checkbox"/> 否定の表現のきまりを理解し、それを用いて身近な人やものごとについて複数の文を書くことができる。					
			<input type="checkbox"/> 社会問題について代名詞を使った表現を用いて、書くことができる。 <input type="checkbox"/> 社会問題について、論理の構成や展開を工夫して詳しく書くことができる。	○	○	○	D	
P	<input type="checkbox"/> 社会問題について、論理の構成や展開を工夫して詳しく話すことができる。			○	A			
2	Lesson 10 Follow in Our Hero's Footsteps	R	<input type="checkbox"/> 医師の中村哲氏について述べた英文を読み、内容を理解することができる。	○	○		D	
		L	<input type="checkbox"/> 医師の中村哲氏についての二人の対話を聞き取り、内容を理解することができる。			○	A	
		W	<input type="checkbox"/> 無生物主語構文を用いて、身近な人や物事について複数の文を書くことができる。					
			<input type="checkbox"/> 自分の関心のある人物について、thatを使った表現のきまりを理解し、情報や自分の考えを書くことができる。	○	○		D	
P	<input type="checkbox"/> 関心のある人物について、論理の構成や展開を工夫して紹介することができる。			○	A			

※ 原則として一つの単元（題材）で全ての観点について評価することとなるが、学習内容（小単元）の各項目において重点的に評価を行う観点（もしくは重み付けを行う観点）について○を付けている。

科目名	情報 I	単位数	2	履修学年	2	必修
使用教科書	高等学校 情報 I (数研出版)					
副教材	高等学校 情報 I サポートノート (数研出版) プログラミング入門 Python編 (数研出版)					

学習の到達目標	<p>ア 「情報」の基礎知識を身につける。</p> <p>イ 情報モラルや情報に関する法律などについて学ぶ。</p> <p>ウ デジタルとアナログの違い、情報のデジタル化について学ぶ</p> <p>エ 情報通信技術の進展とコミュニケーション手段について学ぶ。</p> <p>オ データを分析する手段や方法を学び、ソフトウェアを用いて分析する。</p>
---------	---

評価の観点	評価の内容	評価方法
知識・技能	効果的なコミュニケーションの実現，コンピュータやデータの活用について理解し，技能を身に付けているとともに，情報社会と人との関わりについて理解している。	A C
思考・判断・表現	事象を情報とその結び付きの視点から捉え，問題の発見・解決に向けて情報と情報技術を適切かつ効果的に用いている。また，グループワークにおいて，自分の考えをまとめ，表現することができる。	B C D
主体的に学習に取り組む態度	情報社会との関わりについて考えながら，問題の発見・解決に向けて主体的に情報と情報技術を活用し，自ら評価し改善しようとしている。また，問題解決の過程を振り返って考察を深め，評価・改善しようとする態度が身につけている。	A B D
評価方法	<b>A 授業に対する意欲・態度</b> <b>B 授業におけるグループワークへの取り組み</b> <b>C 定期試験・小テスト</b> <b>D 発表・課題等の提出</b>	



評価のためのルーブリック

		A	B	C	割合
		十分満足できる	おおむね満足できる	努力を要する	
知識・技能	小テスト	各小テストでの平均点が95%以上	各小テストでの平均点が70%~94%	各小テストでの平均点が69%以下	50
	定期試験①	知識・技能をはかる問題の正答率が80%以上	知識・技能をはかる問題の正答率が40~79%	知識・技能をはかる問題の正答率が39%以下	
断 思 考 表 現 判	定期試験②	思考・判断・表現をはかる問題の正答率が70%以上	思考・判断・表現をはかる問題の正答率が40~69%	思考・判断・表現をはかる問題の正答率が39%以下	30
	発表	十分に準備をして発表に臨み、優れた思考力・表現力がある。	準備をして発表に臨み、思考力・表現力がある。	準備が不十分である。	
主 体 的 に 学 習 に 取 り 組 む 態 度	発表	発表に向かう態度が大変優れている。	発表に向かう態度が身についている。	積極的に発表を行おうとしていない。	20
	授業に対する意欲態度	自己・他者評価により、授業に意欲的に取り組み、ワークシートやノートをしっかり取っていることが評価されている	自己・他者評価により、授業に意欲的に取り組んでいることが評価されている	自己・他者評価により、授業に意欲的に取り組んでいないと判断されている	
	授業におけるグループワークへの取り組み	自己・他者評価により、意欲的な取り組みが評価されている	自己・他者評価により、やるべき活動をこなしていることが評価されている	自己・他者評価により、やるべき活動をこなしていないと判断されている	
	課題提出	すべての課題が提出され、意欲的な取り組みが見てとれる	すべての課題が提出されている	課題が提出されていない	

情報科の育てたい資質能力

- (1) 主体性：主体的・計画的に学習・行動しようとする力
- (2) 思考力：物事を論理的に考え、根拠にもとづき主体的に判断する力
- (3) 発信力：自分の意見や学んだことを的確に表現し他者に伝える力

小山西高校の育てたい資質能力

「思考力」「発信力」「探究力」「寛容性」「協働力」「主体性」「向上心」「継続力」

# 1 学期

月	単元		評価の観点のポイント			評価方法	試験範囲	
			知識技能	思考判断表現	態度			
4	第1編 情報社会の問題解決	情報と情報技術を活用して、問題を発見・解決する方法を身につけている。	○			C	期末試験	
		第1章 情報とメディア						
5	A 情報とは何か B 情報源と情報の検証 C 情報とメディアの特性 D 問題解決のプロセス	情報と情報技術を活用して、問題を発見・解決する方法について考えている。		○		B		
		情報とメディアに関心を持ち、考察しようとする。	○		○	A D		
6	第2章 情報社会における法とセキュリティ	情報に関する法規や制度、情報セキュリティの重要性、情報社会における個人の責任および情報モラルについて理解している。	○			C		
		A 情報社会と法規・制度 B 個人情報の適正な利活用と保護 C 知的財産権 D 情報セキュリティ E 情報セキュリティ対策のための技術						B
		情報に関する法規や制度およびマナーの意義、情報社会において個人のはたす役割や責任、情報モラルなどについて、考察している。			○			
7	第3章 情報社会が社会に及ぼす影響	法とセキュリティに関心を持ち、考察しようとする。	○		○	A D		
		情報技術が人や社会にはたす役割と及ぼす影響について理解している。	○			C		
		A 情報技術の発展の光と影 B 情報技術の適切な活用						B
随時	※コンピュータとプログラミング①(実習)	情報社会について関心を持ち、考察しようとする。	○		○	A D		
		実習を通じて、コンピュータの仕組みを理解しようとしている。	○	○	○	A B D		

## 2 学期

月	単元		評価の観点のポイント			評価方法	試験範囲
			知識技能	思考判断表現	態度		
8 9	第2編 コミュニケーションと 情報デザイン	情報のデジタル化の基礎的な知識と技術を理解している。	○			C	期末試験
	第1章 情報のデジタル表現 A アナログとデジタル B デジタル情報の表現 C 文字のデジタル表現 D 音のデジタル表現 E 画像のデジタル表現 F 動画のデジタル表現 G データの圧縮	ビットの概念, 2進法による表現, 文字, 音, 画像, 動画のデジタル化の原理と表現方法を考察している。		○		B	
10		デジタル表現に関心を持ち, 考察しようとする。	○		○	A D	
	第2章 コミュニケーション手段の発展と特徴 A 通信とその進展 B マスコミュニケーションの進展 C 情報の発信とメディアの性質	メディアの特性とコミュニケーション手段の特徴について, その変遷もふまえて科学的に理解している。	○			C	
11		メディアとコミュニケーション手段の関係を科学的にとらえ, それらを目的や状況に応じて適切に選択している。		○		B	
		コミュニケーション手段に関心を持ち, 考察しようとする。	○		○	A D	
12	第3章 情報デザイン A 情報を表現する方法 B ユニバーサルデザイン	情報デザインが人や社会にはたしている役割を理解している。	○			C	
		コミュニケーションの目的を明確にして, 適切かつ効果的な情報デザインを考えている。		○		B	
		情報デザインに関心を持ち, 考察しようとする。	○		○	A D	
随時	※コンピュータとプログラミング② (実習)	簡単なプログラミングを通じて, アルゴリズムを理解しようとしている。	○	○	○	A B D	

### 3 学期

月	単元		評価の観点のポイント			評価方法	試験範囲
			知識技能	思考判断表現	態度		
1	第4編 情報通信ネットワークとデータの活用 第3章 データの分析 A データのさまざまな形式 B データの収集方法 C データの種類と尺度水準 D データの分析 E テキストマイニング・仮説検定の考え方	データを表現，蓄積するための表し方と，データを収集，整理，分析する方法について理解している。	○			C	学年末試験
2		データの収集，整理，分析および結果の表現の方法を適切に選択している。		○		B	
3		データの分析に関心を持ち，考察しようとする。	○		○	A D	
随時	※コンピュータとプログラミング③(実習)	表計算ソフトを通じて、モデル化とシミュレーションを理解することができる。	○	○	○	A B D	